

会計名			創意ある学校づくり事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	1	3								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	継続的に「創意ある学校づくり」を実践していくことにより、教育水準の向上を図るとともに心豊かな児童生徒の育成を図る。			主たる内容	各学校が、地域と連携し、講師を招くことにより、それぞれに特色を出した行事等を運営する。				
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
		対象者	小中学校	事業期間	平成9年度 ~					
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業 D 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		小学校15校と中学校6校が本物体験や感動体験を中心とした活動に取り組み、特色ある学校づくりに尽力した。同時に、心豊かな児童生徒の育成を図った。 【取り組み例】 地域の自然や人材を生かした学習、自然科学に親しむ学習の展開など		小学校15校と中学校6校が本物体験や感動体験を中心とした活動に取り組み、特色ある学校づくりに尽力した。同時に、心豊かな児童生徒の育成を図った。 【取り組み例】 地域の自然や人材を生かした学習、地域の歴史を学び心を豊かにする学習など		小学校15校と中学校6校が本物体験や感動体験を中心とした活動に取り組み、特色ある学校づくりに尽力した。同時に、心豊かな児童生徒の育成を図った。 【取り組み例】 地域の自然や人材を生かした学習、地域の歴史を学び心を豊かにする学習など		小学校15校と中学校6校が本物体験や感動体験を中心とした活動に取り組み、特色ある学校づくりに尽力した。同時に、心豊かな児童生徒の育成を図る。 【取り組み例】 地域の自然や人材を生かした学習、地域の歴史を学び心を豊かにする学習など		
成果		全ての小中学校において、それぞれの校区の良さを生かして「創意ある学校づくり」を実践している。こうした取り組みを通して、教育内容を充実させることができたり、その道のプロである外部講師を活用した体験活動を取り入れ、本物志向をより充実させたりして、心豊かでたくましい児童生徒の育成を図ることができている。また、各校から提出された計画書をもとに予算を配分し、予算の有効活用をした。								
課題		より事業の質を高めるために、本来の事業目的について再度確認するとともに、より特色のある教育活動、創意工夫のある学校づくりを計画している学校に対して、効果的な予算配分ができるようにさらに事務改善を図る。								
指標名称（単位）				実績値		目標値				
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
成果指標		学校生活に満足している児童の割合（小学6年生）（%）			81.5	83.7	85.0	85.0	85.0	
成果指標		学校生活に満足している生徒の割合（中学3年生）（%）			80.0	81.6	82.4	82.4	82.4	
他市との比較検証		安城市	魅力ある学校づくり事業	全29校	1,000万円					
		碧南市	魅力ある学校づくり事業	全12校	179.4万円					
	高浜市	特色ある学校づくり事業	全7校	76万円						
	知立市	魅力ある学校設計事業	全10校	500万円	配分している。					
C 事業 コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費 ①		12,900	12,900	12,900	12,900	合計	12,900,000 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	委託料	12,900,000 円		
		一般財源	12,900	12,900	12,900	12,900				
	職員人件費 ②		1,262	1,267	1,489	1,445				
	総事業費（①+②）		14,162	14,167	14,389	14,345				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			創意ある学校づくり事業	担当部	教育部
一般会計				担当課	学校教育課
款	項	目		担当係	指導係
10	1	3			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 		高い	特色ある学校づくりに取り組む中で、地域の人材や教育資源を有効活用することは、児童生徒の豊かな心をはぐくむうえで、必要な事業である。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 		高い	平成24年度から、全小中学校の計画書の内容にもとづいて予算を配分している。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 		普通	学校が地域の人材を講師として招いたり、本物に触れる体験学習を行ったりすることにより、学校や地域、事業者などが協力して、児童生徒の豊かな心を育む取組みを推進している。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 		普通	地域の人材や特性を生かした取り組みや本物体験、感動体験を行うことで、幅広い教育の充実を図り、児童生徒の可能性を引き出し、次世代を担う人材の育成に貢献している。
	今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
これまで一律の金額を補助していたものを、平成24年度から各学校の計画内容に応じた査定をして補助額を決定することとした。 今後も特色のある教育活動、創意工夫のある学校づくりを計画している学校に対し、より効果的な予算配分ができるように、各学校の計画を元に査定を行ったり、事務改善を図ったりしながら実施していく。					

会計名			総合的な学習実施事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	1	3								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	各小中学校の実態及び課題に応じた総合的な学習を推進し、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 この総合的な学習を推進するため各校の裁量で進める学習の支援を図る。			主たる内容	総合的な学習の時間を使って、国際理解、情報、環境、福祉、健康等の今日的な課題、子どもの興味関心に合わせた課題、地域や学校の特色に応じた課題などの学習活動を行う小中学校に対し、補助金を交付する。 【総合的な学習の時間】 週2時間、小学3年生～中学3年生				
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令	学習指導要領							
		対象者	小中学校		事業期間	平成12年度～				
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業実績 D 実績 O 実績 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		【課題別取組み状況】		【課題別取組み状況】		【課題別取組み状況】		【課題別取組み予定】		
・国際理解		1校	・国際理解	2校	・国際理解	3校	・国際理解	3校		
・情報		2校	・情報	5校	・情報	2校	・情報	2校		
・環境		8校	・環境	9校	・環境	11校	・環境	11校		
・福祉		3校	・福祉	4校	・福祉	4校	・福祉	4校		
・健康	2校	・健康	4校	・健康	1校	・健康	1校			
・防災	3校	・防災	5校	・防災	5校	・防災	5校			
・キャリア教育	13校	・キャリア教育	15校	・キャリア教育	9校	・キャリア教育	9校			
成果	子どもたちが自ら身近な問題を見つけ、自分たちの力で解決していこうとする積極的な態度が見られ、生きる力の育成がはかられた。									
課題	授業時間が削減され、学年ごとに複数のテーマを実践することが難しくなっている。									
O 実績 V	指標名称（単位）				実績値		目標値			
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
	成果指標	将来の夢や目標のある児童の割合（小学6年生）（％）			85.6	84.8	84.2	85.6	86.0	
	成果指標	将来の夢や目標のある生徒の割合（中学3年生）（％）			69.1	67.1	63.9	69.1	70.0	
	他市との比較検証	安城市 29校 576.2万円。 碧南市、高浜市、知立市は、総合的な学習の時間にかかる予算配当は行っていない。								
C 事業コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費①		3,350	2,825	2,807	2,880	合計 2,807,075 円			
	財源	特定財源	0	0	0	0	役務費 30,000 円			
		一般財源	3,350	2,825	2,807	2,880	負担金、補助及び交付金 2,777,075 円			
	職員人件費②		912	915	862	837				
	総事業費（①+②）		4,262	3,740	3,669	3,717				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			総合的な学習実施事業	担当部	教育部
一般会計				担当課	学校教育課
款	項	目		担当係	指導係
10	1	3			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 		高い	総合的な学習の時間に取り組む中で、テーマに基づいた活動をすることは、児童生徒の豊かな心をはぐくむ上で、必要な事業である。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 		普通	均等割及び児童生徒数割で予算を配分している。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 		普通	学校が地域の人材を講師として招いたり、本物に触れる体験学習を行ったりするため、妥当な予算を配当している。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 		普通	児童生徒が社会の変化に対応できる能力を身につけることができるよう国際理解、環境、情報、福祉、健康などの教育を推進し、次世代を担う人材の育成に貢献している。
	今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
本年度のうちに、来年度の計画書を提出させる。 本年度の事業報告会を実施し、各校の実践について情報交換を行う。					

会計名 一般会計			東吉野村文化交流事業				担当部	教育部		
款	項	目					担当課	学校教育課		
10	1	3					担当係	指導係		
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	小学6年生を対象に、刈谷市と歴史的な関わりが深い、奈良県東吉野村との文化的な交流を図る。			主たる内容	小学6年生が奈良県東吉野村を1泊2日で訪問する。歴史学習の一環として史跡を見学し、地元の人たちと文化的な交流活動を行う。				
	位置づけ	関連計画 根拠法令								
	対象者	小学校児童			事業期間	平成26年度～				
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他								
	B 事業実績 D 実績 O 実績 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
				亀城小学校の6年生が11月に東吉野村を訪問し、東吉野小学校の児童及び地元の人たちと交流を図った。		東吉野小学校の児童を刈谷市に迎え入れ、交流を行った。		小学校3校の6年生が10月に東吉野村を訪問し、史跡を見学し、地元の人たちと交流を図る。		
		成果	天誅組の史跡を実際に見学し、文化的な交流を図ることができた。							
課題		今後、大規模校が訪問した際、宿泊場所の検討が必要となる。								
指標名称（単位）					実績値		目標値			
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
活動指標	参加した児童数（人）				—	109	30	175	414	
指標	参加した児童の割合（％）				—	100.0	100.0	100.0	100.0	
他市との比較検証										
C 事業コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費 ①		0	921	0	2,100	合計 0円			
	財源	特定財源	0	0	0	0				
		一般財源	0	921	0	2,100				
	職員人件費 ②		0	845	940	913				
	総事業費（①+②）		0	1,766	940	3,013				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			東吉野村文化交流事業	担当部	教育部
一般会計				担当課	学校教育課
款	項	目		担当係	指導係
10	1	3			
C H E D C K ハ 評 価 シ ト	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 		高い	本市と歴史的に関わりの深い、奈良県東吉野村の小学生と文化的な相互交流を図り、郷土の歴史に興味・関心を持った児童を育成するうえで、必要な事業である。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 		普通	平成26年度から、相互交流のスケジュールに合わせた効果的な予算を編成している。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 		普通	市制施行の周年記念にあたる年度には、奈良県東吉野村の小学生を迎え入れ、本市の積極的なPRを行いながら、文化的な相互交流を深める。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 		高い	天誅組最後の地を見学することで、江戸末期の歴史への関心を高めるとともに、郷土の歴史に興味・関心を持った児童の育成に貢献している。
	今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
平成32年度までは、市制施行の周年記念にあたる年度には、奈良県東吉野村の小学生を本市に迎え入れ、それ以外の年度には、本市の小学生が奈良県東吉野村を訪問し、相互交流を図る。 （市制施行65周年にあたる平成27年度と、70周年にあたる32年度は、奈良県東吉野村の小学生を本市に迎え入れる。）					

会計名 一般会計			中学生被災地派遣事業				担当部	教育部	
款	項	目					担当課	学校教育課	
10	1	3					担当係	指導係	
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	教育内容の充実						
	目的	被災地の現状を見聞し、支援活動に参加することで、被災地復興への願いと防災に関する意識の高揚を図る。			主たる内容	市内全中学校の代表生徒が被災地を訪問する。 遺構の見学や交流活動を通して、被災地の現状を知るとともに、派遣終了後は全校生徒及び保護者を対象にした報告会を行い、情報の共有化を図る。			
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	中学校生徒			事業期間	平成26年度～		
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B 事業 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
				派遣者：中学生 各校4人（24人） 派遣地：宮城県石巻市 報告会：中学校6校		派遣者：中学生 各校4人（24人） 派遣地：宮城県石巻市、女川町 報告会：中学校6校		派遣予定者：中学生 各校4人（24人） 派遣候補地：宮城県石巻市 報告会：中学校6校	
成果		被災地に直接出向き、現地の方の声を聞きながら現状を知ることにより、被災地復興の願いと防災への意識を高めることができた。							
課題		2泊3日の派遣事業で終日移動の時間もあるため、生徒の健康面を考慮し、現地でのスケジュールは、少しゆとりのある行程を組む必要がある。							
O 実施 V	指標名称（単位）				実績値		目標値		
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
	活動指標	生徒会活動計画に防災に関する取り組みが盛り込まれている中学校数（校）			1	6	6	6	6
活動指標	参加した中学生数（人）			—	24	24	24	24	
	他市との比較検証								
C 事業 コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		0	921	1,177	1,400	合計	1,177,340 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	委託料	1,177,340 円	
		一般財源	0	921	1,177	1,400			
	職員人件費 ②		0	915	940	913			
	総事業費（①+②）		0	1,836	2,117	2,313			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			中学生被災地派遣事業	担当部	教育部
一般会計				担当課	学校教育課
款	項	目		担当係	指導係
10	1	3			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 		高い	市全体の被災地復興への願いと、市民の防災に関する意識の高揚を図るうえで、必要である。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 		普通	2泊3日の行程に合わせた効果的な予算を編成している。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 		普通	被災地の現状視察や支援活動の参加は、被災地復興への願いと防災に対する意識の高揚を図るためには重要であり、現地への派遣は妥当である。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 		高い	ボランティア活動や交流活動を通して、被災地の現状を知るとともに、派遣終了後には、学校ごとに全校生徒及び保護者を対象にした報告会を行い、情報の共有化を図っている。
	今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
平成26年度から28年度までの3年間は、6中学校の代表生徒を被災地に派遣する計画である。 派遣終了後は、引き続き、生徒会サミットなどの報告会により情報の共有化を図る。					

会計名		スクールガードリーダー配置事業				担当部	教育部		
一般会計						担当課	学校教育課		
款	項					目	担当係	指導係	
10	1					3			
PLAN概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	安全・安心で地域に開かれた学校づくり						
	目的	児童が安心して学ぶことができるよう、全小学校でスクールガードリーダーによる巡回やスクールガードに対する指導を行いながら効果的な安全体制を整備する。		主たる内容	警察OBのスクールガードリーダーを配置し、専門的な視点からスクールガードの指導や登下校時の巡回指導を行い、児童の安全を確保する。				
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	小学校、小学校児童及び保護者		事業期間	平成19年度～			
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B D O A 実 施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		市内を北部、中部、南部に分け、各地区1人、警察OBのスクールガードリーダーを配置した。それぞれ250時間の活動計画で各小学校の安全体制及び登下校時の児童の安全を巡回指導等により確保した。		市内を北部、中部、南部に分け、各地区1人、警察OBのスクールガードリーダーを配置した。それぞれ250時間の活動計画で各小学校の安全体制及び登下校時の児童の安全を巡回指導等により確保した。		市内を北部、中部、南部に分け、各地区1人、警察OBのスクールガードリーダーを配置した。それぞれ250時間の活動計画で各小学校の安全体制及び登下校時の児童の安全を巡回指導等により確保した。		市内を北部、中部、南部に分け、各地区1人、警察OBのスクールガードリーダーを配置する。それぞれ250時間の活動計画で各小学校の安全体制及び登下校時の児童の安全を巡回指導等により確保する。	
成果		3人のスクールガードリーダーが、市内を北部、中部、南部に分けて、各学校を巡回し、通学路の安全管理体制を評価するとともに、各校のスクールガードを指導することにより、各校の安全管理についての意識が高まり、児童の安全が確保された。							
課題		スクールガードリーダーの巡回を希望する学校が同じ日、時刻に重なってしまい、各学校の要望に十分に答えることができなかった。							
指標名称（単位）				実績値		目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
活動指標		スクールガードリーダーの人数（人）			3	3	3	3	3
成果指標		登下校時の不審者情報件数（件）			25	23	18	20	20
他市との比較検証		安城市は、スクールガードリーダー2名 70万円の配置あり。碧南市は、スクールガードをPTAや地域のボランティア活動として実施している。高浜市、知立市は、同様の事業なし。							
C 事業 コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費 ①		1,927	1,951	1,964	1,963	合計	1,963,570 円	
	財源	特定財源	0	374	374	0	報償費	1,875,000 円	
		一般財源	1,927	1,577	1,590	1,963	需用費	37,500 円	
	職員人件費 ②		842	915	1,097	1,065	役務費	51,070 円	
	総事業費（①+②）		2,769	2,866	3,061	3,028			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0		学校支援地域本部事業費補助金（県）					
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			スクールガードリーダー配置事業	担当部	教育部
一般会計				担当課	学校教育課
款	項	目		担当係	指導係
10	1	3			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 	高い	交通事故の発生や不審者等の出没など、児童生徒を取り巻く危険はいっこうに無くならない。安全確保のため、より質の高い取り組みが必要である。	
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 	普通	各校の安全確保に向けた取り組みの質を高めるため、市が専門的な知識や経験を持つ警察官OBを継続的に配置することは、効率的で効果的な事業推進に適切な方法である。	
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 	高い	学校ごとの実情に応じた児童生徒の安全確保に向けた取り組みの質を高めるために、専門的な知識や経験を持った指導者による巡回や具体的な指導・助言は有効である。	
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 	普通	安全・安心で地域に開かれた学校づくりとして、地域や家庭、行政などが一体となって通学時の安全対策、防犯対策の推進を図り、子どもの健全性の育成に取り組み、次世代を担う人材の育成に貢献している。	
今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止		
北部・中部・南部の小学校を巡回する3名体制は、妥当であると考えます。 各校の支援者（スクールガード）のほとんどが保護者であることから、指導的な立場である者からの助言は毎年度必要であるため、現在の体制を維持し、今後も児童生徒の安全に資する事業となるよう継続していく必要がある。					

会計名			肢体不自由児童生徒介助支援事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	肢体不自由な児童生徒は、移動、食事、排泄、衣服の着脱等、困難な状況に陥る場合があるため、介助支援員を配置することで対象児童生徒の学校生活を支援する。			主たる内容	下肢に障害のある児童生徒に対し、その障害に応じて適切な介助を行うため、該当校に介護支援員を配置する。			
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	小中学校	事業期間	～				
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B 事業実績	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		特に下肢に障害のある児童生徒に対して、その障害に応じて適切な介助を行うため、介助支援員を該当校に配置した。 （配置校）富士松東小、平成小、双葉小 依佐美中		特に下肢に障害のある児童生徒に対して、その障害に応じて適切な介助を行うため、介助支援員を該当校に配置した。 （配置校）小高原小、日高小、衣浦小、富士松東小、平成小、小垣江小、朝日小、依佐美中		特に下肢に障害のある児童生徒に対して、その障害に応じて適切な介助を行うため、介助支援員を該当校に配置した。 （配置校）亀城小、小高原小、日高小、衣浦小、かりがね小、富士松北小、富士松東小、平成小、小垣江小、朝日小、依佐美中		特に下肢に障害のある児童生徒に対して、その障害に応じて適切な介助を行うため、介助支援員を該当校に配置する。 （配置校）亀城小、日高小、衣浦小、かりがね小、富士松北小、平成小、小垣江小、小高原小、富士松中、朝日小	
成果		介助支援員を配置することにより、肢体不自由児童生徒に対して適切な介助ができた。							
課題		より専門的な知識、技能をもった介助支援員を配置することで、児童生徒に機能訓練的な指導をしたい。							
指標名称（単位）				実績値		目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
活動指標		肢体不自由児童生徒介助支援員人数（人）			4	9	18	19	19
成果指標		介助支援が必要な児童生徒に対する介助支援員の充足率（%）			100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
他市との比較検証		他の4市は本市における学校教育活動支援事業、特別支援学級児童生徒支援事業、肢体不自由児童生徒介助支援事業が一体となっている。肢体不自由児童生徒には介助が必ず必要である。 安城市 79名 4,279万円。 碧南市 28名 3,047.1万円 知立市 23名 2,870.8万円 高浜市 23名 2,052万円							
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費 ①		4,039	9,088	18,688	20,096	合計	18,687,950 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	賃金	18,687,950 円	
		一般財源	4,039	9,088	18,688	20,096			
	職員人件費 ②		1,192	1,267	1,567	1,521			
	総事業費（①+②）		5,231	10,355	20,255	21,617			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			肢体不自由児童生徒介助支援事業	担当部	教育部
一般会計				担当課	学校教育課
款	項	目		担当係	指導係
10	1	3			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など 		高い	下肢に障害のある児童生徒に対して、教育活動をスムーズに行うための支援をする介助支援員を配置することは、当該児童生徒が学校生活を送る上で必要である。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など 		普通	下肢に障害のある児童生徒が学校で生活する期間のみ、介助支援員を配置している。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など 		高い	刈谷市立学校に在籍する特に下肢に障害のある児童生徒の支援のための事業であり、市が主体となって実施すべき事業である。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など 		普通	下肢に障害のある児童生徒や周りの児童生徒が安全に生活を送るために、介助支援員が配置されることで、子どもたちの安心・安全な学校生活に寄与している。
今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止		
肢体不自由児童生徒介助支援員の勤務日、勤務時間の確認は、勤務報告書によって行う。 介助支援員は、指導週報に支援の状況や児童生徒の様子を記録し、該当校の特別支援教育コーディネーターが勤務の内容を把握・指導助言を行う。 肢体に障害があるため、学校生活に支援が必要な児童生徒に対しては、必ず支援補助員を配置できるようにする。					

会計名 一般会計			子ども相談事業				担当部	教育部		
款	項	目					担当課	学校教育課		
10	1	4					担当係	子ども相談センター		
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化			主たる内容	子ども相談センターにおいて、親や子ども等の電話相談、来所相談を行う。			
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	親や子ども等の総合的な相談窓口である子ども相談センターにおいて、他機関と連携した相談活動を行い、相談者に具体的な解決の支援や精神的な安心感をもたらす。				実施方法	■直営 □委託 □指定管理 □補助・助成 □その他			
	位置づけ	関連計画					事業期間	～		
	根拠法令									
	対象者									
	実施方法									
	B 事業実績 D 実績 O ハ 実 施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		・電話相談 279件/年間 ・来室相談 617件/年間 ・関連機関とのつなぎ 539件/年間		・電話相談 209件/年間 ・来室相談 582件/年間 ・関連機関とのつなぎ 567件/年間		・電話相談 323件/年間 ・来室相談 768件/年間 ・関連機関とのつなぎ 683件/年間		・電話相談 250件/年間 ・来室相談 650件/年間 ・関連機関とのつなぎ 600件/年間		
成果		子どもに関することであれば何でも相談を受けるというコンセプトの中で様々な相談内容を受けることができている。年齢も3歳～19歳と幅広い年齢の子どもの相談を受けることができている。関連機関とのつなぎもすることにより問題解決をスムーズに行うことができている。								
課題		受信中心の相談活動になっており、センターにつながることでできない子どもや家族への支援をどのようにしていくかの課題が残されている。								
指標名称（単位）				実績値			目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		相談件数（件）			896	791	1,091	900	1,000	
指標										
他市との比較検証		現時点では、他市に同じような施設はなく、本市独自の取組みである。								
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		10,641	10,509	11,497	16,579	合計	11,497,255 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	賃金	9,744,805 円		
		一般財源	10,641	10,509	11,497	16,579	報償費	1,650,000 円		
	職員人件費 ②		7,013	7,743	11,752	3,802	旅費	4,480 円		
	総事業費（①+②）		17,654	18,252	23,249	20,381	需用費	97,970 円		
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			子ども相談事業	担当部	教育部
一般会計				担当課	学校教育課
款	項	目		担当係	子ども相談センター
10	1	4			
C H E D C K ハ 評 価 シ ト	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 		高い	これまでは、子どもに関する事で相談を受ける専門的なセンターがなかったため、今後、さらに需要は高まると考えられる。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 		普通	必要に応じた職員の増員や内容の充実のための費用増の可能性もあるが、現段階では適正と考える。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 		高い	かなりの専門性が求められることと教育委員会や市関係の部署との連携を考慮すると、市主体の実施の方が望ましいと思われる。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 		高い	市民のニーズは拡大していくと思われる。
	今後の方向性			<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
職員の専門性をより深め、子どもや保護者及び教育関係者との連携を強化し、スムーズな問題解決を図る。					

会計名			私立高等学校等授業料補助事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	学事・保健係		
10	1	3								
PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	私立高等学校等在籍者の保護者に授業料の補助を行い、公私立学校間における保護者負担の格差是正を図り、もって教育の機会均等の原則を確保し、あわせて私立学校教育の振興に寄与する。	主たる内容	私立高等学校等在籍者の保護者に授業料の補助（年額上限18,000円）を行う。						
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令	刈谷市私立高等学校等授業料補助金交付要綱							
		対象者	私立高等学校等在籍者の保護者	事業期間	平成3年度 ~					
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 実施	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		支給実績人数 944人 年額（上限） 18,000円/人		支給実績人数 958人 年額（上限） 18,000円/人		支給実績人数 951人 年額（上限） 18,000円/人		支給見込人数 1,023人 年額（上限） 18,000円/人		
成果		私立高等学校等在籍者の保護者に授業料の補助を行い、公私立学校間における保護者負担の格差是正を図った。また、市民だよりなどの広報の利用、各高等学校などへの周知にも取り組んでいる。								
課題		平成22年度から国の就学支援金の導入により、公私立共に授業料の支援は増えたが、公立は実質、授業料が無料になっているのに対し、私立は一部の支援に留まり、依然公私立間の格差は残っている現状である。市の授業料補助事業は継続が必要であり、申請率を上昇させるため、今後も周知活動を拡大していきたい。								
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
活動指標		年額上限（円）		18,000	18,000	18,000	18,000	18,000		
指標										
他市との比較検証		【所得基準・有】名古屋市 26,000円・15,000円、岡崎市 12,000円、安城市 18,000円・12,000円、高浜市 24,000円・12,000円 【所得基準・無】年額15,000円：豊田市 年額12,000円：碧南市・西尾市・大府市・知立市・みよし市・東浦町								
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		16,731	16,971	16,832	18,420	合計 16,832,000 円			
	財源	特定財源	0	0	0	0	負担金、補助及び交付金 16,832,000 円			
		一般財源	16,731	16,971	16,832	18,420				
	職員人件費 ②		771	845	1,332	1,293				
	総事業費（①+②）		17,502	17,816	18,164	19,713				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名		教育調査研究事業				担当部	教育部		
一般会計						担当課	学校教育課		
款	項					目	担当係	指導係	
10	1					3			
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	教育内容の充実						
	目的	各小中学校に研究指定をすることで、研究的に現職教育計画を立案し、研究主題の深化・拡充を図り、授業研究の充実と指導資料の整備に努める。		主たる内容	毎年、中学校1校、小学校2校を研究指定し、2年計画で発表に向けて現職教育計画を立案し、研究主題の深化・拡充を図り、授業研究の充実と指導資料の整備に努めている。				
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	小中学校		事業期間	～			
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B 事業 D 実績 O 計画 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		研究指定し、2年計画で発表に向けて現職教育計画を立案し、授業研究の充実と環境整備に努めた。 (本指定校) 富士松中、住吉小、東刈谷小 (予備指定校) 依佐美中、かりがね小、富士松東小		研究指定し、2年計画で発表に向けて現職教育計画を立案し、授業研究の充実と環境整備に努めた。 (本指定校) 依佐美中、かりがね小、富士松東小 (予備指定校) 雁が音中、富士松南小、朝日小		研究指定し、2年計画で発表に向けて現職教育計画を立案し、授業研究の充実と環境整備に努めた。 (本指定校) 雁が音中、富士松南小、朝日小 (予備指定校) 朝日中、富士松北小、小垣江小		研究指定し、2年計画で発表に向けて現職教育計画を立案し、授業研究の充実と環境整備に努めた。 (本指定校) 朝日中、富士松北小、小垣江小 (予備指定校) 刈谷東中、亀城小、双葉小	
成果		2年計画で発表に向けて現職教育計画を立案し、研究主題の深化・拡充を図り、授業研究の充実と指導資料の整備に努めることができた。そして、その成果を研究発表することができた。研究発表校は、発表を機に自校の指導のあり方を見直し、よりよい教育を目指して改善を心がけることができた。参観者も研究の成果を共有することで、より質の高い教育を行うことができています。							
課題		現在、小学校では週の授業時間数の多い主要教科の研究になっており、技能教科の研究が進まない点が課題としてあげられる。							
O 計画 V	指標名称（単位）				実績値		目標値		
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
	活動指標	研究指定校数（校）			3	3	3	3	3
	指標								
他市との比較検証									
C 事業 コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		1,071	1,050	1,050	1,050	合計	1,050,000 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	委託料	1,050,000 円	
		一般財源	1,071	1,050	1,050	1,050			
	職員人件費 ②		2,104	1,760	1,880	1,825			
	総事業費（①+②）		3,175	2,810	2,930	2,875			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			小中学校英語指導補助事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	教育内容の充実						
	目的	小中学校児童生徒が外国人講師から生きた英語を学ぶことにより、英語に対する興味・関心を深め、英語学習の充実を図る。	主たる内容	外国人英語指導助手を小学校、中学校に派遣し、小中学校の英語授業及び要請訪問に対応する。					
	関連計画								
	位置づけ	根拠法令							
	対象者	小中学校児童生徒	事業期間	平成12年度～					
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業実績	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		・外国人英語指導講師 中学校3名、小学校5名 ・小学校1学級あたりの年間活動時間数 35時間		・外国人英語指導講師 中学校3名、小学校5名 ・小学校1学級あたりの年間活動時間数 35時間		・外国人英語指導講師 中学校3名、小学校5名 ・小学校1学級あたりの年間活動予定時間数 35時間		・外国人英語指導講師 中学校3名、小学校5名 ・小学校1学級あたりの年間活動予定時間数 35時間	
成果		担任教員がALT (Assistant Language Teacher=英語指導講師)とT.T (Team Teaching)で授業を行うことができ、より英語等外国語活動が充実し、活性化を図ることができた。 平成26年度にプロポーザル方式により業者を1者に選定したため、平成27年度からも市内小中学校への統一的な内容での指導が可能となった。							
課題		副教材が変更されたことにより、小学校外国語活動の授業内容も修正が必要となる。刈谷市の指導方針等に即した指導ができるように、委託事業者との十分な調整が必要となる。また、学校現場にも委託事業者が用意しているプログラムを周知する必要もある。							
D 実績	指標名称（単位）			実績値			目標値		
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
	活動指標	小学校1学級あたりの年間活動時間数（時間）		35	35	35	35	35	
	指標								
他市との比較検証	近隣の全ての市町において、英語指導助手派遣事業が行われている。								
C 事業コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		42,670	43,889	43,805	43,805	合計	43,804,800 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	委託料	43,804,800 円	
		一般財源	42,670	43,889	43,805	43,805			
	職員人件費 ②		1,122	1,197	783	760			
	総事業費（①+②）		43,792	45,086	44,588	44,565			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			読書推進事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	1	3								
PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	小中学校における読書指導を推進し、児童生徒がより読書に親しむ環境を整える。			主たる内容	各校で行われた読書指導の成果を感想文集「読書のあとで」にまとめ、読書指導を推進するための指導に活かす。				
	位置づけ	関連計画								
			根拠法令							
		対象者	小中学校児童生徒			事業期間	～			
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 実施	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		「読書のあとで」を全クラスに1冊、図書館に5冊配布		「読書のあとで」を全クラスに1冊、図書館に5冊配布		「読書のあとで」を全クラスに1冊、図書館に5冊配布		「読書のあとで」を全クラスに1冊、図書館に5冊配布		
成果		読書感想文のまとめとして、各校からの優秀作品を「読書のあとで」としてまとめることができた。優れた作品を読ませることによって、文章の構成や表現力など、感想文の書き方を身につけさせると同時に、読書に対する関心を高めることができた。								
課題		読書離れが懸念される中、「朝の読書」を利用して、さまざまな本の紹介など、読書の幅を広げる工夫を今後も継続して実施していくことが課題である。								
指標名称（単位）				実績値		目標値				
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
成果指標		「読書好き」の割合（％）【小学校6年】			76	75.3	74.1	75	77	
成果指標		「読書好き」の割合（％）【中学校3年】			72.8	73.7	71.5	73	74	
他市との比較検証										
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		128	131	134	144	合計	133,941 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	需用費	133,941 円		
		一般財源	128	131	134	144				
	職員人件費 ②		210	422	392	380				
	総事業費（①+②）		338	553	526	524				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			現職教育推進事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	1	3								
PLAN概要 計画V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	教員の資質向上を図る。		主たる内容	各教科部会と各専門委員会において、研修会を実施し、また、教育論文の募集及び表彰など教員の資質向上のための諸事業の実施を、刈谷市教育研究会へ委託する。					
	位置づけ	関連計画								
			根拠法令							
		対象者	小中学校教員		事業期間	～				
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO実績 計画V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		現職教育研修実施状況		現職教育研修実施状況		現職教育研修実施状況		現職教育研修実施計画		
小中学校		21校	小中学校	21校	小中学校	21校	小中学校	21校		
学校緑化研修		2回	学校緑化研修	2回	学校緑化研修	2回	学校緑化研修	2回		
参加者		21名	参加者	21名	参加者	21名	参加者	21名		
教員10年経験者研修			教員10年経験者研修		教員10年経験者研修		教員10年経験者研修			
参加者		21名	参加者	13名	参加者	22名	参加者	15名		
教科指導委員研修			教科指導委員研修		教科指導委員研修		教科指導委員研修			
研修対象者		19名	研修対象者	19名	研修対象者	19名	研修対象者	19名		
			いじめ対策等カウンセリング研修	27回	いじめ対策等カウンセリング研修	27回	いじめ対策等カウンセリング研修	27回		
成果	各小中学校が、研究主題を立案し、学校全体で指導法等の研究に取り組むことができた。また、学校環境緑化を推進するための研修を積むことで、子どもたちの学校生活を充実させ、潤いを与えることができた。その他、該当研修に取り組む中で、個々の力量アップを図ることができた。									
課題	学校における新たな教育問題に対して、研修内容を検討していくことが課題である。									
指標名称（単位）				実績値		目標値				
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標	教科指導委員の年間指導回数（回）			180	180	180	180	190		
成果指標	標準学力テストの平均偏差値（小6）（指数）			52	50.6	50.7	52	52		
他市との比較検証	西三河管内の全市町において、教員への研修が実施されている。									
C事業コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費①		5,939	6,336	6,412	6,780	合計	6,412,023円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	報償費	490,000円		
		一般財源	5,939	6,336	6,412	6,780	需用費	264,623円		
	職員人件費②		3,717	1,971	3,134	3,042	委託料	4,659,000円		
	総事業費（①+②）		9,656	8,307	9,546	9,822	使用料及び賃借料	61,400円		
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			奨学会補助事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	学事・保健係		
10	1	3								
PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	刈谷市奨学会の事業に対し、補助を行い、刈谷市の小中学生の教育振興を図り、将来有用な人物の育成に寄与する。			主たる内容	刈谷市奨学会の事業に対し、補助を行う。 刈谷市奨学会の主な事業 ・高校へ進学する生徒への奨学金支給事業 ・科学分野で顕著な成績を収めた児童生徒の表彰を行う表彰事業				
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
		対象者				事業期間	昭和35年度～			
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 計画	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		刈谷市奨学会へ補助を実施した。 奨学生支給人数 65人		刈谷市奨学会へ補助を実施した。 奨学生支給人数 80人		刈谷市奨学会へ補助を実施した。 奨学生支給人数 81人		刈谷市奨学会へ補助を実施する。 奨学生支給予定人数 97人		
成果		刈谷市奨学会事業が円滑に実施された。 表彰事業は、各校に根付いており、特に創意工夫展や理科研究発表における石田科学賞をはじめとする各賞の授与は、児童生徒の目標となっている。								
課題		奨学生の選定基準を、真に経済的に困窮している人に限定した見直しの必要がある。								
指標名称（単位）				実績値			目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		月額（円）			9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	
指標										
他市との比較検証		【貸与型】月額11,000円～35,000円：愛知県 【給付型】月額9,000円：碧南市・安城市・大府市・知立市 月額8,000円：豊田市・高浜市 月額6,000円：みよし市 【制度なし】名古屋市・西尾市・東浦町								
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費①		6,802	4,685	4,298	5,778	合計 4,297,500円			
	財源	特定財源	500	500	0	0	負担金、補助及び交付金 4,297,500円			
		一般財源	6,302	4,185	4,298	5,778				
	職員人件費②		2,104	2,112	1,959	1,901				
	総事業費（①+②）		8,906	6,797	6,257	7,679				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			教科書指導書等整備事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	2	2								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	学級増への対応及び少人数授業の充実による教員用教科書と指導書の不足分を購入し、学校教育の充実を図る。	主たる内容	毎年、学級増への対応及び少人数授業の充実のために、教員用教科書と指導書の不足分を購入している。						
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
	対象者	小学校	事業期間	～						
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他								
	B 事業実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		教員用教科書及び指導書の不足分を購入した。		教員用教科書及び指導書の不足分を購入した。		小学校教科書改訂に伴い、教師用の教科書、指導書等関係教材等を購入した。		教員用教科書及び指導書の不足分を購入する。		
成果		学級数や職員数に対応するために必要な教員用教科書と指導書を、要望に応じて支給することができた。								
課題		学級数や教員数の増加に伴い、今後も教員用教科書と指導書の不足が予想されるので、それに応じた予算を確保していく。								
指標名称（単位）				実績値			目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		教科書を受給した教員の割合（％）			100	100	100	100	100	
指標										
他市との比較検証										
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		1,125	483	57,295	4,500	合計	57,294,608 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	需用費	57,294,608 円		
		一般財源	1,125	483	57,295	4,500				
	職員人件費 ②		1,052	1,056	1,959	1,901				
	総事業費（①+②）		2,177	1,539	59,254	6,401				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
		27年度までの累積事業費		0						
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			補助教材整備事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	2	2							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	教育内容の充実						
	目的	補助教材を活用し、児童の学力及び指導等について効果を図る。また、全ての学校が共通に使用している補助教材については、市費で購入することにより保護者負担の軽減を図る。				主たる内容	ことばのきまり、算数の友、明るい心、夏休みの日誌、冬休みの日誌等の教材について市費で購入している。		
	位置づけ								
	関連計画								
	根拠法令								
	対象者	小学校			事業期間	～			
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
算数の友、ひらがな・かたかな、ことばのきまり、わたしたちのかりや、みんなの安全、明るい心、健康手帳、かりやの子、みかわの子、かきぞめ手本、国語・算数の学習、夏・冬休み日誌の購入		算数の友、ひらがな・かたかな、ことばのきまり、わたしたちのかりや、みんなの安全、明るい心、健康手帳、かりやの子、みかわの子、かきぞめ手本、国語・算数の学習、夏・冬休み日誌の購入		算数の友、ひらがな・かたかな、ことばのきまり、わたしたちのかりや、みんなの安全、明るい心、健康手帳、かりやの子、みかわの子、かきぞめ手本、国語・算数の学習、夏・冬休み日誌の購入		算数の友、ひらがな・かたかな、ことばのきまり、わたしたちのかりや、みんなの安全、明るい心、健康手帳、かりやの子、みかわの子、かきぞめ手本、国語・算数の学習、夏・冬休み日誌の購入			
成果		「算数の友」「わたしたちのかりや」等、日々の学習で使用できるものを購入することができた。							
課題		補助教材の中で、学級共有のものを増やし、保護者の負担をさらに減らすことが求められる。							
指標名称（単位）				実績値		目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
成果指標		小学校の保護者負担額平均（円）			1,465	1,300	1,300	1,300	1,300
指標									
他市との比較検証									
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費 ①		24,401	19,518	20,358	21,528	合計	20,357,816 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	需用費	20,357,816 円	
		一般財源	24,401	19,518	20,358	21,528			
	職員人件費 ②		701	1,056	627	0			
	総事業費（①+②）		25,102	20,574	20,985	21,528			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			わたしたちのかりや学習事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	2	2								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	社会科の授業の一環として、公共施設等を見学することにより、これからの刈谷の暮らしやまちづくりについての学習の効果と社会科学習の向上を図る。			主たる内容	小学校3・4年生を対象に市内公共施設等の見学のバスの借り上げをしている。 3年生については、ハイウェイオアシスの観覧車に乗り、広く市内を見渡す機会も設けている。				
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
	対象者	小学校3年生、4年生			事業期間	平成11年度～				
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他								
	B 事業実績 D 実績 O 実績 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		ハイウェイオアシス観覧車乗車（小3） 1,315人		ハイウェイオアシス観覧車乗車（小3） 1,349人		ハイウェイオアシス観覧車乗車（小3） 1,381人		ハイウェイオアシス観覧車乗車（小3） 1,400人		
バス借上料 44クラス（小4） 39クラス（小3）		バス借上料 39クラス（小4） 40クラス（小3）		バス借上料 40クラス（小4） 42クラス（小3）		バス借上料 42クラス（小4） 43クラス（小3）				
成果		全小学校の3年生と4年生が、それぞれの学校の計画によって、市内見学を行った。実際に現地を訪れ、施設を見たり、体験活動をすることで、社会科の学習を深めることができた。								
課題		学習内容も増え、一度の見学で見られる施設に限りがある。見学機会を増やしたい。								
指標名称（単位）				実績値		目標値				
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		観覧車乗車数（人）			1,315	1,349	1,381	1,400	1,400	
指標										
他市との比較検証										
C 事業コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費①		4,604	6,602	9,257	10,963	合計	9,256,720円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	使用料及び賃借料	9,256,720円		
		一般財源	4,604	6,602	9,257	10,963				
	職員人件費②		491	704	940	913				
	総事業費（①+②）		5,095	7,306	10,197	11,876				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
		27年度までの累積事業費		0						
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			教科書指導書等整備事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	3	2								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	学級増への対応及び少人数授業の充実による 教員用教科書と指導書の不足分を購入し、学 校教育の充実を図る。		主たる 内容	毎年、学級増への対応及び少人数授業の充実 のために、教員用教科書と指導書の不足分を 購入している。					
	位置づけ									
	関連計画									
	根拠法令									
	対象者	中学校		事業期間	～					
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他								
	B 事業 実績 D 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
教員用教科書及び指導書の不足分を購入した。		教員用教科書及び指導書の不足分を購入した。		教員用教科書及び指導書の不足分を購入した。		中学校教科書改訂に伴い、教師用の教科書及び指導書の購入を行う。				
成果		学級数や教員数の増加に対応するために必要な教師用の教科書、指導書を要望に応じて購入することができた。								
課題		教科書の改訂に伴い、教師用の教科書、指導書等を購入する必要がある。								
O 実施 V	指標名称（単位）				実績値		目標値			
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
	指標	教科書を受給した教員の割合（％）			100	100	100	100	100	
	指標									
	他市との比較検証									
C 事業 コスト V	単位：千円		25年度 （決算）	26年度 （決算）	27年度 （決算）	28年度 （予算）	27年度 事業費内訳			
	事業費 ①		899	131	219	27,000	合計	219,015 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	需用費	219,015 円		
		一般財源	899	131	219	27,000				
	職員人件費 ②		1,052	1,056	1,018	989				
	総事業費（①+②）		1,951	1,187	1,237	27,989				
	建設 事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			補助教材整備事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	3	2								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	補助教材を活用し、生徒の学力及び指導等について効果を図る。また、全ての学校が共通に使用している補助教材については、市費で購入することにより保護者負担の軽減を図る。		主たる内容	ことばのきまり、数学の友、明るい人生、中学生の読書、中学生の学級活動等の教材について市費で購入する。					
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
		対象者	中学校	事業期間	～					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		ことばのきまり 数学の友 中学生の読書 明るい人生 はばたく中学生 健康手帳 デーリーイングリッシュ つくる生活技術 刈谷市の地図 の購入		ことばのきまり 数学の友 中学生の読書 明るい人生 はばたく中学生 健康手帳 デーリーイングリッシュ つくる生活技術 刈谷市の地図 の購入		ことばのきまり 数学の友 中学生の読書 明るい人生 はばたく中学生 健康手帳 デーリーイングリッシュ つくる生活技術 刈谷市の地図 の購入		ことばのきまり 数学の友 中学生の読書 明るい人生 はばたく中学生 健康手帳 デーリーイングリッシュ つくる生活技術 刈谷市の地図 の購入		
成果		ことばのきまり、数学の友などを中学校生徒分購入した。このことにより、保護者負担を軽減することができた。								
課題		その他学級共有教材を増やし、保護者の負担を減らすことが求められる。								
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
成果指標		中学校の保護者負担額平均（円）		6,500	6,500	6,500	6,500	6,500		
指標										
他市との比較検証										
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		10,649	10,295	10,573	11,063	合計	10,573,106 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	需用費	10,573,106 円		
		一般財源	10,649	10,295	10,573	11,063				
	職員人件費 ②		701	1,056	627	608				
	総事業費（①+②）		11,350	11,351	11,200	11,671				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名 一般会計			みどりの学校実施事業				担当部	教育部	
款	項	目					担当課	学校教育課	
10	6	1					担当係	指導係	
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	教育内容の充実						
	目的	自然豊かな環境において活動することにより、健康増進を図るため、小学校5年生を対象に愛知県野外教育センターに教育の場を移し、授業及び特別活動を行う。			主たる内容	小学校5年生を対象に愛知県野外教育センターにおいて「みどりの学校」を実施する。また、野外活動の補助をするカウンセラーを各学校に配置する。			
	関連計画								
	位置づけ	根拠法令							
	対象者	小学校5年生		事業期間	昭和49年度～				
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		みどりの学校実施に伴う費用負担 ・キャンプカウンセラー謝礼 ・キャンプファイヤー材料費 ・消耗品費 ・傷害保険料 ・施設等使用料 ・バス借上料		みどりの学校実施に伴う費用負担 ・キャンプカウンセラー謝礼 ・キャンプファイヤー材料費 ・消耗品費 ・傷害保険料 ・施設等使用料 ・バス借上料		みどりの学校実施に伴う費用負担 ・キャンプカウンセラー謝礼 ・キャンプファイヤー材料費 ・消耗品費 ・傷害保険料 ・施設等使用料 ・バス借上料		みどりの学校実施に伴う費用負担 ・キャンプカウンセラー謝礼 ・キャンプファイヤー材料費 ・消耗品費 ・傷害保険料 ・施設等使用料 ・バス借上料	
成果		日頃の生活では味わえない自然豊かな環境に3日間身を置き、友達と協力して生活することで、豊かな心や社会生活に必要な資質の育成に大いに役立っている。							
課題		キャンプカウンセラーを配置することで、野外活動の質を高めることができるが、予算が限られているため、複数のキャンプカウンセラーを配置することができない。また、キャンプカウンセラーの需要が多く、なかなか確保できない現状がある。							
指標名称（単位）			実績値			目標値			
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		参加した児童の割合（％）		—	—	99.3	99.5	99.5	
指標									
他市との比較検証		いずれの市でも5年生で泊を伴う野外活動を実施している。							
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費①		6,581	6,759	6,108	7,906	合計 6,108,343 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	報償費	318,950 円	
		一般財源	6,581	6,759	6,108	7,906	需用費	376,593 円	
	職員人件費②		912	915	1,097	1,065	役務費	148,800 円	
	総事業費（①+②）		7,493	7,674	7,205	8,971	使用料及び賃借料	5,264,000 円	
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			<p style="text-align: center;">中小学校体育連盟事業</p>				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	6	2							
PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	教育内容の充実						
	目的	中小学校体育連盟の運営を補助し、中小学校体育全般の振興を図る。			主たる内容	○学校体育管理に関する研究調査 ○学校体育研究、講習会の開催 ○中学校生徒の体育大会の開催 ○その他、目的達成に必要な事業			
	位置づけ	関連計画							
			根拠法令						
		対象者	小中学校児童・生徒および教職員		事業期間	～			
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	BDO 事業実績 実績	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		・刈谷市中学校市長杯大会、刈谷・知立地区中学校選手権大会、刈谷市中学校新人戦大会の開催 ・小学校陸上競技会、サッカー・バスケットボール競技会の開催 ・小中学校審判実技講習会の開催		・刈谷市中学校市長杯大会、刈谷・知立地区中学校選手権大会、刈谷市中学校新人戦大会の開催 ・小学校陸上競技会、サッカー・バスケットボール競技会の開催 ・小中学校審判実技講習会の開催		・刈谷市中学校市長杯大会、刈谷・知立地区中学校選手権大会、刈谷市中学校新人戦大会の開催 ・小学校陸上競技会、サッカー・バスケットボール競技会の開催 ・小中学校審判実技講習会の開催		・刈谷市中学校市長杯大会、刈谷・知立地区中学校選手権大会、刈谷市中学校新人戦大会の開催 ・小学校陸上競技会、サッカー・バスケットボール競技会の開催 ・小中学校審判実技講習会の開催	
成果		中小学校体育連盟主催の各種大会、講習会等を大きな事故や問題もなく、円滑に実施することができた。							
課題		熱中症予防のために、夏の大会の空調費分を増額したい。							
指標名称（単位）				実績値		目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
成果指標		県大会以上出場選手数（延べ人数）（人）			180	100	97	180	200
指標									
他市との比較検証		学校会場だけでなく、公共の体育施設等を利用している。							
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費 ①		3,367	3,383	3,537	3,651	合計	3,536,502 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	委託料	2,441,770 円	
		一般財源	3,367	3,383	3,537	3,651	負担金、補助及び交付金	1,094,732 円	
	職員人件費 ②		2,805	2,816	2,037	1,977			
	総事業費（①+②）		6,172	6,199	5,574	5,628			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			理数大好き推進事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN概要 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	教育内容の充実						
	目的	理数大好き推進協議会へ事業委託するとともに、各小中学校が実施する理科研究発表や各種研究物の出品、応募等を支援することにより、児童生徒が科学技術への興味・関心を高めるため、観察・実験などの探究活動や自然及び科学技術にふれる機会を拡大したり、教員による教材開発等の一層の充実と拡大を図ったりすることで、理数大好きな児童生徒の育成を図る。	主たる内容	理数大好き推進協議会への事業委託及び小中学校への理科研究補助を行う。 【理数大好き推進協議会】 ○理科研究 ○創意工夫工作ガイドの発行 ○生活創意工夫展での算数数学おもしろランドの開設 ○化石採集・地層見学会 ○先端科学技術見学会 （トヨタ系企業の協力による） ○理科教育研修事業 ○自然科学体験講座					
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	小中学校児童生徒 教員	事業期間	平成21年度～				
		実施方法	□直営 ■委託 □指定管理 ■補助・助成 □その他						
	B事業実績 D実績 O ハ 実 施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		<児童・生徒対象> ○理科研究・創意工夫工作ガイドの発行 ○エネルギー関係事業所見学・化石採集地層見学会・理科研究発表会・算数数学おもしろランドの開催		<児童・生徒対象> ○理科研究・創意工夫工作ガイドの発行 ○エネルギー関係事業所見学・化石採集地層見学会・理科研究発表会・算数数学おもしろランドの開催		<児童・生徒対象> ○理科研究・創意工夫工作ガイドの発行 ○エネルギー関係事業所見学・化石採集地層見学会・理科研究発表会・算数数学おもしろランドの開催		<児童・生徒対象> ○理科研究・創意工夫工作ガイドの発行予定 ○エネルギー関係事業所見学・化石採集地層見学会・理科研究発表会・算数数学おもしろランドの開催予定	
<教員対象> ○教材開発研修、天体学習研修等研修会の実施		<教員対象> ○教材開発研修、天体学習研修等研修会の実施		<教員対象> ○教材開発研修、天体学習研修等研修会の実施		<教員対象> ○教材開発研修、天体学習研修等研修会の実施予定			
成果		刈谷市では長年、科学教育に力を注いできている。理数大好き推進協議会へ事業を委託することにより、理科研究発表会の開催や創意工夫工作ガイドの発刊、様々な科学技術見学会等を充実させることができ、児童生徒の創造性を育み、科学を好きな子の育成ができています。							
課題		化石採集地層見学会の参加希望者が多く、全員の希望をかなえられない状況である。							
指標名称（単位）			実績値			目標値			
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
成果指標		数学が好きな生徒の割合（％）		57	56.2	56.3	57	58	
成果指標		理科研究・創意工夫工作の全国入選数（点）		65	70	65	70	75	
他市との比較検証									
C事業コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		4,700	4,700	4,700	4,700	合計	4,700,000 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	委託料	2,000,000 円	
		一般財源	4,700	4,700	4,700	4,700	負担金、補助及び交付金	2,700,000 円	
	職員人件費 ②		1,052	986	1,410	1,369			
	総事業費（①+②）		5,752	5,686	6,110	6,069			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名 一般会計			特別支援教育活動事業				担当部	教育部		
款	項	目					担当課	学校教育課		
10	1	3					担当係	指導係		
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	障害のある児童生徒のニーズにあった教育的支援を行い、児童生徒の社会性、協調性を伸ばす。関係機関とのネットワークの形成を図り、特別支援教育の深化向上を目指す。		主たる内容	○刈谷市特別支援教育連携協議会の運営 ○刈谷市特別支援教育推進協議会への委託 ○刈谷市教育支援委員会の運営等					
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
		対象者			事業期間	～				
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業 D 実績 O ハ 実 施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		特別支援教育連携協議会を2回開催した。特別支援教育推進協議会として合同運動会、合同宿泊訓練など、特別支援学級の児童生徒のための行事を開催した。就学指導委員会を2回開催した。		特別支援教育連携協議会を2回開催した。特別支援教育推進協議会として合同運動会、合同宿泊訓練など、特別支援学級の児童生徒のための行事を開催した。教育支援委員会を2回開催した。		特別支援教育連携協議会を2回開催した。特別支援教育推進協議会として合同運動会、合同宿泊訓練など、特別支援学級の児童生徒のための行事を開催した。教育支援委員会を2回開催した。		特別支援教育連携協議会を2回開催する。必要に応じて、小委員会を開催する。特別支援教育推進協議会として合同運動会、合同宿泊訓練など、特別支援学級の児童生徒のための行事を開催する。教育支援委員会を2回開催する。		
成果		特別支援教育連携協議会、特別支援教育推進協議会、教育支援委員会とそれぞれの組織がうまく機能し、障害のある子どもたちの支援を行うことができた。								
課題		特別支援教育連携協議会の小委員会の開催が少なかった。連携協議会をさらに充実させるために、小委員会において課題を十分に話し合っておく必要がある。								
	指標名称（単位）				実績値		目標値			
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
活動指標	適正な就学指導に向けた保護者向け就学支援相談会の実施回数(回)				3	3	3	3	5	
指標										
他市との比較検証	安城市 特別支援教育推進事業 48万円、 碧南市 特別支援教育推進事業 54.4万円と特別支援教育・通級教室実施事業 33.7万円 計 88.1万円、 知立市 特別支援教育連携事業 26.8万円を予算計上している。 高浜市 予算措置なし。									
C 事業 コスト	単位：千円		25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (予算)	27年度 事業費内訳			
	事業費 ①		1,398	1,416	1,581	1,930	合計 1,581,340 円			
	財源	特定財源	0	0	0	0	報償費 104,800 円			
		一般財源	1,398	1,416	1,581	1,930	需用費 5,540 円			
	職員人件費 ②		3,086	3,097	2,977	2,890	委託料 1,465,500 円			
	総事業費 (①+②)		4,484	4,513	4,558	4,820	負担金、補助及び交付金 5,500 円			
建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称					
	27年度までの累積事業費		0							
	29年度以降の事業費見込		0							

会計名			児童生徒学力等調査事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	1	3								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	教育内容の充実							
	目的	児童生徒の学力定着度を客観的に把握し、確かな学力を身に付けさせるための標準学力調査及び知能検査用品を購入する。			主たる内容	○標準学力調査 小4 国・社・算・理 小5 国・社・算・理・意識調査 小6 国・社・算・理 中1 国・社・数・理 中2 国・社・数・理・英・意識調査 中3 国・社・数・理・英 ○知能検査 小2・小4・小6・中1・中3 実施				
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
		対象者	小中学校児童生徒		事業期間	平成18年度～				
		実施方法	■直営 □委託 □指定管理 □補助・助成 □その他							
	BDO 事業実績 計画 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		学年別の偏差値平均 【小学校】 4年生 51.2 5年生 51.5 6年生 50.6 【中学校】 1年生 52.8 2年生 53.5 3年生 53.1		学年別の偏差値平均 【小学校】 4年生 52.2 5年生 51.7 6年生 50.6 【中学校】 1年生 51.9 2年生 53.2 3年生 53.0		学年別の偏差値平均 【小学校】 4年生 50.5 5年生 52.1 6年生 50.7 【中学校】 1年生 51.7 2年生 53.9 3年生 53.8		小学校4～6年、中学校1～3年で実施。 小学校2,4,6年、中学校1,3年で知能検査を実施。		
成果		全学校が4月に実施し、実施結果を基に1学期中に対策を立てることができる本学力調査は大変意義深いものである。刈谷市の教育水準や児童生徒の学習の定着度を把握し、学習指導、学校経営に役立っている。								
課題		小学校6年生の社会・理科が偏差値50を下回っているので、基礎学力の定着を図る必要がある。								
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
成果指標		小中学校各教科偏差値平均50以上の割合（％）		80	96	85	85	87		
成果指標		小学校理科（4～6年）の偏差値50以上の学年の割合（％）		80	67	67	80	85		
他市との比較検証		碧南市、安城市、知立市、高浜市は学校ごとに判断して、保護者負担で実施している。								
C 事業コスト 建設事業		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		15,939	16,037	15,794	16,708	合計	15,794,136 円		
	財源	特定財源	3,566	3,469	3,397	3,819	需用費	15,794,136 円		
		一般財源	12,373	12,568	12,397	12,889				
	職員人件費 ②		1,122	1,267	1,254	1,217				
	総事業費（①+②）		17,061	17,304	17,048	17,925				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0		教育課程実施状況調査負担金						
29年度以降の事業費見込		0								

会計名 一般会計			芸術・文化関係開催支援事業				担当部	教育部			
款	項	目					担当課	学校教育課			
10	1	3					担当係	指導係			
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化								
		基本施策	学校教育								
		施策の内容	教育内容の充実								
	目的	児童生徒が美術、音楽等の文化・芸術分野に親しむことで豊かな感性を培う。また、理数、技術家庭分野では、創意工夫に取り組むことにより、科学技能の知識を身に付ける。			主たる内容	スクールコンサート、バンドフェスティバル、小中音楽会、刈谷っ子ギャラリー、生活創意工夫展、観劇会を開催する。					
	位置づけ	関連計画									
		根拠法令									
		対象者	小中学校児童生徒		事業期間	～					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他								
	B 事業実績 D 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画			
		スクールコンサート、バンドフェスティバル、小中音楽会、刈谷っ子ギャラリー、生活創意工夫展、観劇会等の開催費用を負担及び補助した。		スクールコンサート、バンドフェスティバル、小中音楽会、刈谷っ子ギャラリー、生活創意工夫展、観劇会等の開催費用を負担及び補助した。		スクールコンサート、バンドフェスティバル、小中音楽会、刈谷っ子ギャラリー、生活創意工夫展、観劇会等の開催費用を負担及び補助した。		スクールコンサート、バンドフェスティバル、小中音楽会、刈谷っ子ギャラリー、生活創意工夫展、観劇会等の開催費用を負担及び補助する。			
成果		各種行事を良い機会として、児童生徒が芸術・文化関係の活動に取り組み、普段あまり触れることがない分野の体験ができた。									
課題		貸切バスの新たな運賃制度導入に伴う入札方法、予算編成が課題である。									
指標名称（単位）					実績値		目標値				
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標	参加小中学校数（校）				21	21	21	21	21		
指標											
他市との比較検証											
C 事業コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳				
	事業費 ①		10,044	10,415	18,245	9,938	合計	18,244,528 円			
	財源	特定財源	0	0	0	0	報償費	80,044 円			
		一般財源	10,044	10,415	18,245	9,938	需用費	160,764 円			
	職員人件費 ②		2,244	1,760	1,802	1,749	役務費	89,120 円			
	総事業費（①+②）		12,288	12,175	20,047	11,687	委託料	6,417,600 円			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称					
27年度までの累積事業費		0									
29年度以降の事業費見込		0									
						使用料及び賃借料	9,697,000 円				
						負担金、補助及び交付金	1,800,000 円				

会計名			地方自治制度学習事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	3	2							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	教育内容の充実						
	目的	市内中学校3年生の生徒全員が、刈谷市議会の議場を見学し、刈谷市議会の様子等について説明を聞くことを通して、地方自治の仕組みを理解する。			主たる内容	中学校3年生が刈谷市議会の議場を見学し、刈谷市議会の様子等についての説明を受ける。			
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	中学校	事業期間	平成23年度～				
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B 事業 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		市内の中学校全3年生1,585名を10月31日から11月15日の期間で、市役所庁舎内の見学とともに、議場の見学や模擬議会の経験をした。その際、主な課の仕事内容について説明を受けた。		市内の中学校全3年生1,493名を10月30日から11月14日の期間で、市役所庁舎内の見学とともに、議場の見学や模擬議会の経験をした。その際、主な課の仕事内容について説明を受けた。		市内の中学校全3年生1,480名を10月29日から11月13日の期間で、市役所庁舎内の見学とともに、議場の見学や模擬議会の経験をした。その際、主な課の仕事内容について説明を受けた。		市内の中学校全3年生1,448名を10月27日から11月11日の期間で、市役所庁舎内の見学とともに、議場の見学や模擬議会の経験を積ませる。その際、主な課の仕事内容について説明をする。	
成果		実際に議場の座席に座る経験や話し合いの時間を通して、議会の仕組みを理解させることができた。また、市役所の役割も理解させることができた。							
課題		議会の仕組みを知るいい機会になった。議会制度についての事前学習はなされていたが、市役所の役割に関して事前学習が充分でなかったため、地方自治の学習の中で、市役所の役割に関する学習をしてから見学に臨むとさらに効果が上がる。							
指標名称（単位）			実績値			目標値			
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
成果指標	地方自治について興味・関心をもつことができた生徒の割合（％）		60	60	60	60	80		
成果指標	議会の仕組みや市役所の役割が理解できたと思う子供の割合（％）		50	50	50	50	70		
他市との比較検証	刈谷市独自の企画であり、近隣市町では行われていない。								
C 事業 コスト 建設 事業	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		964	991	1,099	1,468	合計 1,098,792 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	使用料及び賃借料 1,098,792 円		
		一般財源	964	991	1,099	1,468			
	職員人件費 ②		842	845	1,097	1,065			
	総事業費（①+②）		1,806	1,836	2,196	2,533			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			体力向上プロジェクト推進支援事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	6	2							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	教育内容の充実						
	目的	児童生徒の体力向上及び教員の体育指導力向上のために、教員を対象とした講習会を実施する。		主たる内容	児童生徒の体力を向上させるために、体育の授業や外遊びで活用できる運動種目について知識技能を高める。 教員の体育指導力を向上させるために、各種のトレーニングやスポーツの専門家を招いて、講習会を実施し、教員の指導力向上を図る。				
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者			事業期間	平成22年度～			
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B 事業 D 実績 O ハ 実 施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育園と中学校の指導者を対象に、体づくり運動講習会を実施 小学生を対象に体づくり運動指導会を実施 小学校外遊び検定の実施 		<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育園と中学校の指導者を対象に、体づくり運動講習会を実施 小学生を対象に体づくり運動指導会を実施 小学校低学年の体育授業でコーディネーショントレーニングの定着化 小学校外遊び検定の実施 		<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育園と中学校の指導者を対象に、体づくり運動講習会を実施 小学生を対象に体づくり運動指導会を実施 小学校低学年の体育授業でコーディネーショントレーニングの定着化 小学校外遊び検定の実施 		<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育園と中学校の指導者を対象に、体づくり運動講習会を実施 小学生を対象に体づくり運動指導会を実施 小学校低学年の体育授業でコーディネーショントレーニングの定着化 小学校外遊び検定の実施 	
成果		指導対象年代別の講習会の実施を通して、コーディネーショントレーニングの理解が進み、多くの学校の体育の授業にコーディネーショントレーニングが取り入れられるようになってきた。また、幼稚園や保育園の指導者への講習会を実施することにより、幼児期の運動遊びの必要性を感じられるようになった。小学校での外遊び検定を実施することで、体力向上に対する教員の意識も高まってきた。							
課題		コーディネーショントレーニングを学校体育に定着させるために、講習会の実施を継続したい。 体力テストで依然として伸び悩んでいる「握力」、「ボール投げ」の力をつけさせるための工夫が必要である。							
指標名称（単位）			実績値			目標値			
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標	小学校5年、6年と中学生の体力テストの結果で全国平均を下回る種目数（個）		24	22	17	15	10		
指標									
他市との比較検証	近隣で同様の事業を行っている市町はない。								
C 事業 コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		300	300	300	300	合計	300,000 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	委託料	300,000 円	
		一般財源	300	300	300	300			
	職員人件費 ②		1,823	2,182	1,254	1,217			
	総事業費（①+②）		2,123	2,482	1,554	1,517			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			防犯対策事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	安全・安心で地域に開かれた学校づくり						
	目的	児童生徒の安全を確保する。			主たる内容	○防犯ブザーの購入 児童生徒のランドセルやカバン等に取付が可能な携帯用防犯ブザーを購入し、小学校1年生に配付する。			
						○防犯情報メールの配信 不審者情報等を児童生徒の保護者に、いち早く発信する。			
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
	対象者	小中学校児童生徒			事業期間	平成21年度～			
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業実績 D O ハ 実 施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
小学校新1年生児童全員分、予備を含め1,500個配付した。防犯情報メール配信を実施した。		小学校新1年生児童全員分、予備を含め1,500個配付した。防犯情報メール配信を実施した。		小学校新1年生児童全員分、予備を含め1,500個配付した。防犯情報メール配信を実施した。		小学校新1年生児童全員分、予備を含め1,500個配付予定。防犯情報メール配信予定			
※平成25年度から防犯対策事業として防犯情報メール配信サービス事業と統合した。									
成果		全児童生徒に防犯ブザーを配布したことにより、児童生徒一人ひとりの防犯意識を高めることができた。							
課題		定期的な電池の取替えについて、保護者への啓発が適宜必要である。							
O ハ 実 施 V	指標名称（単位）				実績値		目標値		
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
	成果指標	登下校中の不審者情報件数（件）			25	23	18	20	20
	指標								
他市との比較検証									
C 事業コスト 建設事業	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		827	866	915	927	合計	914,520 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	需用費	759,000 円	
		一般財源	827	866	915	927	使用料及び賃借料	155,520 円	
	職員人件費 ②		1,964	634	627	608			
	総事業費（①+②）		2,791	1,500	1,542	1,535			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名		保育体験実施事業				担当部	教育部		
一般会計						担当課	学校教育課		
款	項					目	担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	次世代の親を育成するため中学生に乳幼児と接したり、幼い子どもの世話を体験する機会を与え、豊かな心を育成する。			主たる内容	中学校の家庭科の保育学習の時間を中心に実際に幼稚園等に出かけ、幼児と遊ぶ体験をしている。事前に幼児の発達段階やふさわしい遊びについて学習した上で、手作りのおもちゃ等を準備している。			
	位置づけ	関連計画		根拠法令					
	対象者	中学校生徒			事業期間	平成18年度～			
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業実績	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		中学校の家庭科の保育学習の時間を中心に、実際に幼稚園等に出かけ、事前に準備した手作りのおもちゃで幼児と遊んだり、紙芝居の読み聞かせを行ったりすることで、保育学習の充実を図った。		中学校の家庭科の保育学習の時間を中心に、実際に幼稚園等に出かけ、事前に準備した手作りのおもちゃで幼児と遊んだり、紙芝居の読み聞かせを行ったりすることで、保育学習の充実を図った。		中学校の家庭科の保育学習の時間を中心に、実際に幼稚園等に出かけ、事前に準備した手作りのおもちゃで幼児と遊んだり、紙芝居の読み聞かせを行ったりすることで、保育学習の充実を図った。		中学校の家庭科の保育学習の時間を中心に、実際に幼稚園等に出かけ、事前に準備した手作りのおもちゃで幼児と遊んだり、紙芝居の読み聞かせを行ったりすることで、保育学習の充実を図る。	
		成果	中学校の家庭科の保育学習の時間を中心に、市内全中学校の3年生が、実際に幼稚園等に出かけ、事前に準備した手作りのおもちゃや紙芝居等を使って、幼児と遊ぶ体験をしたことで、生徒たちが幼児への関心と理解を深め、かかわり方を工夫できるようになった。また、生徒たちは、次世代の親として成長していく過程で理解・体験すべき内容を知ることができ、思いやりの心を育む上で大変よい成果を得ることができた。						
課題		各校ごとに、事前に幼稚園や保育園に出向き、園との共通理解のもとで取り組んでいる。全中学校が行うようになってきたので、学校と園との日程調整が難しくなってきている。							
指標名称（単位）				実績値		目標値			
活動指標	生徒1人あたりの幼児についての学習時間数（時間）	25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
指標		16	16	16	16	16			
他市との比較検証									
C 事業コスト	単位：千円	25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費①	951	886	874	917	合計	874,200円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	委託料	874,200円	
		一般財源	951	886	874	917			
	職員人件費②	491	493	470	456				
	総事業費（①+②）	1,442	1,379	1,344	1,373				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）	0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名 一般会計			あいち・出会いと体験の道場推進事業				担当部	教育部	
款	項	目					担当課	学校教育課	
10	1	3					担当係	指導係	
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	中学生に社会の成り立ちを理解させ、健全な職業観や勤労観を育むとともに人間関係を築く力を身に付けさせる。		主たる内容	地域社会を道場（教室）として位置づけ、地域の商店、企業、公的施設などの人々に先生になってもらい3日間程度の職場体験を実施する。				
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	中学校2年生	事業期間	平成18年度～				
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B 事業 実績 D 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		6中学校の2年生が職場体験学習を3日間行った。		6中学校の2年生が職場体験学習を3日間行った。		6中学校の2年生が職場体験学習を3日間行う。		_____	
成果		3日間の体験学習を終えた後、進んであいさつする生徒、自ら仕事を求め、気がついたことを進んでやる生徒の成長した様子をより多く見ることができた。 厳しくご指導を受けるところもあり、働くことの厳しさや今の自分の甘えを自覚することができた生徒もいた。							
課題		現在、県委託事業として県費により実施しているが、今後、県からの委託がなくなることも考えられる。 生徒たちの職業観の涵養と社会性を身に付けさせるために大変有意義な事業であるため、県費による委託事業がなくなっても、市費による単独事業として継続したい。							
O 実施 V	指標名称（単位）			実績値			目標値		
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
	活動指標	受入れ事業所数（事業所）		600	600	600	0	0	
	他市との比較検証								
C 事業 コスト 建設 事業	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		520	370	342	370	合計	342,250 円	
	財源	特定財源	520	370	342	0	委託料	342,250 円	
		一般財源	0	0	0	370			
	職員人件費 ②		1,052	563	392	380			
	総事業費（①+②）		1,572	933	734	750			
	建設 事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0		あいち・出会いと体験の道場推進事業費委託金（県）					
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			進路指導事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	中学生の高校進学、就職指導を目的とした生徒の将来への適切な指導の充実を図る。	主たる内容	高校進学、就職指導を目的とした生徒の将来への適切な指導の充実を図るため以下の内容等を刈谷市教育研究会へ事業を委託する。					
				○進路指導計画、指導の進め方の検討 ○進路状況の調査 ○高等学校の特色の分析 ○事業所の特色の分析 ○志願状況の分析検討					
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	中学校3年生	事業期間	～				
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
BDO 事業実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
	・国公立 67.4% ・私立 20.2% ・定時制 2.8% ・通信制 6.5% ・高等専門学校 0.4% ・特別支援学校 1.3% ・専修学校 0.1% ・就職 0.6% ・その他 0.9%		・国公立 67.1% ・私立 20.0% ・定時制 2.7% ・通信制 6.7% ・高等専門学校 0.4% ・特別支援学校 1.3% ・就職 0.7% ・その他 1.1%		・国公立 64.4% ・私立 23.5% ・定時制 2.8% ・通信制 6.3% ・高等専門学校 0.3% ・特別支援学校 1.0% ・専修学校 0.2% ・就職 0.6% ・その他 0.9%		生徒の個に応じた適切な進路を決定する。		
	成果	生徒の進路希望の実現に向け、保護者と連絡を密に取り、必要な資料やデータを提示する中で、該当生徒の適正や可能性を模索し、自己実現に近づく進路指導を行った。							
	課題	中学校卒業者の雇用が少なく、就職希望者が就職できずにアルバイトや家事従事になってしまう。進路が未定にならないように指導をしなければならない。							
	指標名称（単位）			実績値			目標値		
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
	成果指標	高等学校等への進学率（%）		98.2	98.4	98.4	98.4	98.5	
	成果指標	進路未定者（%）		0.8	0.9	0.8	0.8	0.5	
	他市との比較検証								
	C 事業コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
事業費 ①		4,241	4,241	4,241	4,241	合計 4,241,000 円			
財源		特定財源	0	0	0	0	委託料 4,241,000 円		
		一般財源	4,241	4,241	4,241	4,241			
職員人件費 ②		1,052	1,056	783	760				
総事業費（①+②）		5,293	5,297	5,024	5,001				
建設事業		全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
	27年度までの累積事業費		0						
	29年度以降の事業費見込		0						

会計名							担当部	教育部		
一般会計			外国人児童等指導事業				担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	1	3								
PLAN概要	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	ポルトガル語（ブラジル人）、タガログ語（フィリピン人）及び中国語に対応する語学指導員を小中学校へ派遣するとともに、語学相談員を拠点校に配置し、外国人児童生徒に生活適応支援や語学指導を行うことにより、外国人児童生徒の教育支援及び学校生活の充実を図る。	主たる内容	【巡回指導】 語学指導員（ポルトガル語1人、タガログ語1人、中国語1人）が、児童生徒の状況や要望に応じ、児童生徒及び保護者の相談に対応するため計画的に小中学校の巡回指導を行う。 【プレスクール（拠点校指導）】 語学相談員（ポルトガル語1人、タガログ語3人）が、かりがね小学校と朝日小学校を拠点校として、日本語教育の初期指導を行う。						
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
		対象者	小中学校外国人児童生徒	事業期間	平成4年度～					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO実績	25年度実績	【巡回指導】		【巡回指導】		【巡回指導】		【巡回指導】	
			・ポルトガル語 小学生38人、中学生6人		・ポルトガル語 小学生40人、中学生11人		・ポルトガル語 小学生40人、中学生11人		・ポルトガル語 小学生20人、中学生7人	
・タガログ語 小学生56人、中学生15人			・タガログ語 小学生17人、中学生8人		・タガログ語 小学生56人、中学生15人		・タガログ語 小学生44人、中学生20人			
【プレスクール】 ・かりがね小学校 小学生10人、中学生1人 ・朝日小学校 小学生9人、中学生1人			【プレスクール】 ・かりがね小学校 小学生12人、中学生1人 ・朝日小学校 小学生3人		【プレスクール】 ・中国語 小学生2人、中学生2人 【プレスクール】 小学生19人、中学生2人		【プレスクール】 ・中国語 小学生7人、中学生5人 【プレスクール】 小学生18人、中学生4人			
成果		中国人児童生徒が急増していることにより、中国語語学指導員の指導時間を増やすことができた。								
課題		フィリピン人児童生徒が急増しているため、タガログ語及び日本語の教育の指導的立場の者として、タガログ語の語学指導員を市で雇用・増員する必要がある。								
O		指標名称（単位）				実績値			目標値	
						25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
		活動指標	語学指導員・語学相談員数（人）			5	5	7	7	7
成果指標		外国人生徒の高等学校等への進学割合（%）			—	—	91.7	90	90	
他市との比較検証	碧南市の語学指導員は、ポルトガル語2人、スペイン語1人、他の言語3人 374.7万円 安城市の語学相談員は、ポルトガル語4人、タガログ語2人 1,537.7万円 知立市の早期体対応指導員3人1,053.2万円、日本語指導助手2人884.3万円、外国語指導助手3人875.800円 高浜市の早期体対応指導員 1人232万円									
Cコスト	単位：千円	25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳				
	事業費①	10,910	11,593	13,718	17,629	合計	13,717,999円			
	財源	特定財源	0	0	0	0	報償費	13,638,597円		
		一般財源	10,910	11,593	13,718	17,629	需用費	34,373円		
	職員人件費②	982	986	1,018	989	役務費	45,029円			
	総事業費（①+②）	11,892	12,579	14,736	18,618					
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			いじめ及び不登校児童生徒指導事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	いじめや不登校の児童生徒に対する相談、指導を行う「すこやか教室（適応指導教室）」を3箇所設置し、きめ細かな個別対応をすることにより、諸問題の改善を図る。 また、学校生活における児童生徒の意欲や満足感及び学級集団の状態を把握することで、いじめや不登校の未然防止を図る。			主たる内容	北部、中部、南部の3箇所ですこやか教室（適応指導教室）を設置し、いじめや不登校の児童生徒や保護者の相談、指導を行う。 また、中学生に対して、質問紙によるアンケートを年1回実施する。			
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	小中学校不登校児童生徒 保護者	事業期間	平成2年度 ~				
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B 事業 実績 O 実績 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		通級指導	2,153件	通級指導	3,073件	通級指導	2,144件	通級指導	2,000件
来室相談		923件	来室相談	1,069件	来室相談	1,108件	来室相談	1,000件	
電話相談		977件	電話相談	1,202件	電話相談	1,173件	電話相談	1,000件	
学校訪問		262件	学校訪問	246件	学校訪問	229件	学校訪問	250件	
家庭訪問		11件	家庭訪問	3件	家庭訪問	6件	家庭訪問	15件	
通級者		49人	通級者	53人	通級者	54人	通級者	40人	
成果		刈谷市の不登校児童生徒数は中学校で2.10%、小学校で0.4%であり、愛知県の平均を下回っている。すこやか教室（適応指導教室）の成果である。							
課題		訪問指導により、すこやか教室（適応指導教室）に不登校児童生徒を通級させることが必要であり、そのために指導員を増員しなければならない。							
O 実績 V		指標名称（単位）				実績値		目標値	
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
	成果指標	中学校生徒の不登校の割合（%）			1.52	1.86	2.1	1.8	1.5
	成果指標	小学校児童の不登校の割合（%）			0.14	0.2	0.44	0.2	0.15
	他市との比較検証	近隣すべての市で、教育相談事業が行われている。 【不登校の割合】 平成26年度：愛知県 中学校 3.14%、小学校 0.49% 平成26年度：全国 中学校 2.76%、小学校 0.39%							
C 事業 コスト 建設 事業	単位：千円		25年度 （決算）	26年度 （決算）	27年度 （決算）	28年度 （予算）	27年度 事業費内訳		
	事業費 ①		20,260	20,301	21,296	24,213	合計	21,295,550 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	賃金	18,466,975 円	
		一般財源	20,260	20,301	21,296	24,213	報償費	696,000 円	
	職員人件費 ②		1,333	1,408	1,567	1,521	旅費	58,100 円	
	総事業費（①+②）		21,593	21,709	22,863	25,734	需用費	1,676,618 円	
	建設 事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称		役務費	183,673 円
27年度までの累積事業費		0				委託料	26,000 円		
29年度以降の事業費見込		0				使用料及び賃借料	178,184 円		
						負担金、補助及び交付金	10,000 円		

会計名 一般会計			心の教室相談員事業				担当部	教育部	
款	項	目					担当課	学校教育課	
10	1	3					担当係	指導係	
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系		分野	教育文化					
			基本施策	学校教育					
			施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応					
	目的		生徒が悩み等を気軽に話すことができ、ストレスを和らげる第三者的な存在となり得る者を生徒の身近に配置し、生徒が心のゆとりをもてるような環境を提供するために全中学校に心の教室相談員を配置する。	主たる内容	各中学校に、週に3日～5日、1日4時間、年間680時間、大学生院生等を配置している。				
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
	対象者		中学校生徒	事業期間	平成10年度～				
	実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	BDO 事業実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		各中学校に1名ずつ、週に5日、1日4時間、年間680時間、大学生等を配置した。		各中学校に1名または2名の相談員を、各校合計で週に5日、1日4時間、年間680時間、配置した。		各中学校に1名または2名の相談員を、各校合計で週に5日、1日4時間、年間680時間、配置した。		各中学校に1名または2名の相談員を、各校合計で週に5日、1日4時間、年間680時間、配置する。	
成果		人間関係などで悩みを持った生徒が気軽に相談でき、生徒の精神的なストレスを軽減することができている。							
課題		生徒の問題が多様化してきており、相談時間の増加が望まれる。							
指標名称（単位）				実績値		目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
成果指標		中学校生徒の不登校の割合（％）			1.52	1.86	2.1	1.8	1.5
指標									
他市との比較検証		高浜市では「スクールヘルパー」、知立市では「あいフレンド指導員」、碧南市では「ハートフレンド」を配置し、同様の取り組みを行っている。 安城市では新たに28年度からスクールアシスタント事業を開始する。							
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費①		3,889	4,496	4,257	4,358	合計	4,256,823円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	報償費	4,160,000円	
		一般財源	3,889	4,496	4,257	4,358	需用費	96,823円	
	職員人件費②		631	634	1,175	1,141			
	総事業費（①+②）		4,520	5,130	5,432	5,499			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
		27年度までの累積事業費		0					
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			少人数授業充実事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN概要 計画V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	少人数授業を充実することにより、一人ひとりの児童にきめ細かな指導をすることで学力の向上及び生活指導の充実を目的とする。		主たる内容	○全ての小学校で少人数授業を実施 ○授業時間 週20時間 ○加配非常勤講師 35人 (小学校の規模に応じて配置)				
	位置づけ	関連計画							
			根拠法令						
		対象者	小学校	事業期間	平成15年度～				
		実施方法	■直営 □委託 □指定管理 □補助・助成 □その他						
	B事業実績 D実績 O A 実施V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		小学校15校（全校）へ、少人数授業に対応するための非常勤講師を29名雇用した。		小学校15校（全校）へ、少人数授業に対応するための非常勤講師を29名雇用した。		小学校15校（全校）へ、少人数授業に対応するための非常勤講師を29名雇用した。		小学校15校（全校）へ、少人数授業に対応するための非常勤講師を35名雇用する。	
成果		少人数授業を行うことにより、算数を始めとする各教科において学習内容の理解度が上がったという成果を得ている。また、22年度から増加した6名の非常勤講師による体育や音楽の実技指導は、子どもたちのやる気を大いに喚起させている。							
課題		今後は、体力向上を図る上でも、体育の少人数授業をさらに充実させることが必要である。また、中学校への配置についても検討する必要がある。							
指標名称（単位）			実績値			目標値			
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標	非常勤講師数（人）		29	29	29	35	35		
成果指標	標準学力テスト（算数）偏差値（指数）		53	52.7	52.4	53	53		
他市との比較検証	少人数授業非常勤は、県費で配置されるが、不足分を各市で予算化し補っている。安城市は少人数授業2名 500万円(中学校)、少人数学級18名 5,505.9万円(小学校)を配置、碧南市は少人数授業9名 2,460.7万円(小学校1～3年)を配置、高浜市は少人数授業17名 2,552万円(小中学校)を配置、知立市は少人数授業5名 1,418.1万円(小学校)、少人数学級6名 4,339.3万円(小学校)を配置している。								
C事業コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費①		57,994	58,386	58,870	72,275	合計	58,870,000円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	賃金	58,870,000円	
		一般財源	57,994	58,386	58,870	72,275			
	職員人件費②		1,473	1,619	2,272	2,205			
	総事業費(①+②)		59,467	60,005	61,142	74,480			
建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
	27年度までの累積事業費		0						
	29年度以降の事業費見込		0						

会計名			学校教育活動支援事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	1	3								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	児童一人ひとりを大切にする教育を推進するために、支援指導補助員を配置して、発達障害のある児童に対して、その障害の状況に応じた適切な教育支援を行う。	主たる内容	発達障害のある児童に対して、支援を必要とする児童が在籍している全小学校に支援指導補助員を配置する。 支援が必要な児童の状況に応じて、複数配置を実施している。						
	関連計画									
	位置づけ	根拠法令								
	対象者	小中学校	事業期間	平成17年度～						
	実施方法	■直営 □委託 □指定管理 □補助・助成 □その他								
	B 事業 実績 O 実績 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		通常の学級に在籍する発達障害のある児童に対する教育活動の支援として、全小学校に支援指導補助員を1名配置した。支援を必要とする児童の状況に応じ、複数配置した。 支援指導補助員 23人		通常の学級に在籍する発達障害のある児童に対する教育活動の支援として、全小学校に支援指導補助員を1名配置した。支援を必要とする児童の状況に応じ、複数配置した。 支援指導補助員 26人		通常の学級に在籍する発達障害のある児童に対する教育活動の支援として、全小学校に支援指導補助員を1名配置した。支援を必要とする児童の状況に応じ、複数配置した。 支援指導補助員 29人		通常の学級に在籍する発達障害のある児童に対する教育活動の支援として、全小学校に支援指導補助員を1名配置する。支援を必要とする児童の状況に応じ、複数配置する。 支援指導補助員 31人		
成果		支援指導補助員が配置されたことにより、個別に支援を要する児童への細やかな対応ができるため、対象児童が速やかに授業に参加できるようになりつつあると同時に、学校への適応状況も改善し、いじめ・不登校の減少にも結びついている。								
課題		支援を必要とする児童、あるいは保護者が支援を希望する児童が増加しており、支援指導補助員を増員する必要がある。また、学校規模だけでなく、子ども一人ひとりの障害の程度をみて、支援補助員の配置を考える必要がある。								
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
活動指標		学校教育活動支援指導補助員（人）		23	26	29	31	35		
成果指標		継続して支援が必要な児童数（人）		18	18	105	111	120		
他市との比較検証		他の4市は本市における学校教育活動支援事業、特別支援学級児童生徒支援事業、肢体不自由児童生徒介助支援事業が一体となっている。 安城市 79名 4,279万円。 碧南市 28名 3,047.1万円 知立市 23名 2,599.8万円 高浜市 23名 2,052万円								
C 事業 コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		23,130	26,248	30,106	32,788	合計	30,105,975 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	貸金	30,105,975 円		
		一般財源	23,130	26,248	30,106	32,788				
	職員人件費 ②		1,964	1,971	1,567	1,521				
	総事業費（①+②）		25,094	28,219	31,673	34,309				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			外国人児童生徒教材開発支援事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	刈谷市と愛知教育大学が連携して「外国人児童生徒のための教材開発と学習支援」を行い、愛知教育大学の持つ専門的な諸能力を地域社会の中で具体的・実践的に活用し、急増する外国人児童生徒の学習支援に関する課題の解決を図り、地域社会の発展に寄与する。	主たる内容	愛知教育大学が学生を市内小中学校の外国人児童生徒の日本語指導のため派遣するための費用を負担するとともに日本語学習補助教材、教科指導カリキュラムの開発の機会を提供する。					
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	小中学校外国人児童生徒	事業期間	平成20年度～				
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B 事業実績 D 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		<ul style="list-style-type: none"> 各教科の教材開発 日本語指導を含む教科指導のカリキュラム開発 小中学校からの要請に応じて外国人児童生徒学習支援ボランティア登録学生を派遣し学習支援 研究会、研修会、シンポジウム等開催 		<ul style="list-style-type: none"> 各教科の教材開発 日本語指導を含む教科指導のカリキュラム開発 小中学校からの要請に応じて外国人児童生徒学習支援ボランティア登録学生を派遣し学習支援 研究会、研修会、シンポジウム等開催 		<ul style="list-style-type: none"> 各教科の教材開発 日本語指導を含む教科指導のカリキュラム開発 小中学校からの要請に応じて外国人児童生徒学習支援ボランティア登録学生を派遣し学習支援 研究会、研修会、シンポジウム等開催 		<ul style="list-style-type: none"> 各教科の教材開発 日本語指導を含む教科指導のカリキュラム開発 小中学校からの要請に応じて外国人児童生徒学習支援ボランティア登録学生を派遣し学習支援 研究会、研修会、シンポジウム等開催 	
成果		学校現場において教員の手数や外国人児童生徒向けの教育教材が不足している。愛知教育大学から教材の提供を受け、学生ボランティアを派遣してもらうことにより、外国人の児童生徒へ、学習支援・生活支援を行うことができた。							
課題		学生の大学の受講時間と学校の指導時間が重なることもあり、派遣に向けたマッチングがうまくできない。							
指標名称（単位）			実績値			目標値			
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		支援する児童生徒数（人）		48	48	35	50	50	
指標									
他市との比較検証									
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費 ①		1,000	1,000	1,000	1,000	合計 1,000,000 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	負担金、補助及び交付金 1,000,000 円		
		一般財源	1,000	1,000	1,000	1,000			
	職員人件費 ②		421	70	235	228			
	総事業費（①+②）		1,421	1,070	1,235	1,228			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名 一般会計			保護児童助成事業				担当部	教育部		
款	項	目					担当課	学校教育課		
10	2	2					担当係	学事・保健係		
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	刈谷市立の小学校に就学する児童の保護者で経済的に困窮し、子どもを就学させることが困難な方に対して、学用品費等を援助することにより、負担軽減を行う。				主たる内容	準要保護児童に対する学用品費、校外活動費、修学旅行費等の扶助、要保護児童に対する修学旅行費の扶助を行う。			
	関連計画									
	位置づけ	根拠法令	就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励についての国の援助に関する法律							
	対象者	刈谷市立の小学校に就学する児童				事業期間	～			
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他								
	B 事業実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		平成25年5月1日現在		平成26年5月1日現在		平成27年5月1日現在		平成28年5月1日現在		
・全校児童数 8,428人		・全校児童数 8,402人		・全校児童数 8,334人		・全校児童数 8,332人				
・要保護児童 40人		・要保護児童 37人		・要保護児童 34人		・要保護児童 28人				
・準要保護児童 352人		・準要保護児童 354人		・準要保護児童 361人		・準要保護児童 359人				
成果		学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費等を援助することで、保護者の経済的な負担を軽減し、就学の維持が図れるよう配慮できた。								
課題		給与費目の拡充等、近隣市の動向を注視し、検討する。								
指標名称（単位）				実績値			目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		全校児童数（人）			8,428	8,402	8,334	8,332	8,500	
指標										
他市との比較検証	国庫補助基準単価に準拠しており、近隣市と概ね同水準で実施している。									
C 事業コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費 ①		7,771	8,629	9,033	8,927	合計	9,033,131 円		
	財源	特定財源	203	27	58	150	扶助費	9,033,131 円		
		一般財源	7,568	8,602	8,975	8,777				
	職員人件費 ②		701	704	1,018	989				
	総事業費（①+②）		8,472	9,333	10,051	9,916				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0		就学援助費補助金（国）						
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			特別支援教育就学奨励事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	学事・保健係		
10	2	2								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	特別支援学級在籍児童の保護者の経済的な負担軽減を行う。	主たる内容	特別支援学級に在籍する児童の保護者のうちで、所得が支給制限額を下回っているものに対し、学用品費等の一部を扶助する。						
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令	特別支援学級への就学奨励に関する法律							
		対象者	特別支援学級在籍児童	事業期間	～					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 計画 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		・ 辞退者	12人	・ 辞退者	25人	・ 辞退者	25人	・ 辞退者	21人	
・ 申請者		106人	・ 申請者	100人	・ 申請者	114人	・ 申請者	107人		
・ 認定者		96人	・ 認定者	95人	・ 認定者	101人	・ 認定者	98人		
成果		学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費等を援助することで、保護者の経済的な負担を軽減し、就学の維持が図れるよう配慮できた。								
課題		領収書の徴収方法、給与費目の見直し等、国の指導に基づき、適切に対応する。								
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
活動指標		特別支援学級在籍児童数（人）		118	125	139	130	130		
指標										
他市との比較検証	国庫補助基準単価に準拠しており、近隣市も概ね同水準で実施している。									
C 事業コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費 ①		2,675	2,449	2,574	4,423	合計	2,574,112 円		
	財源	特定財源	926	1,223	1,287	1,326	扶助費	2,574,112 円		
		一般財源	1,749	1,226	1,287	3,097				
	職員人件費 ②		561	704	1,254	1,217				
	総事業費（①+②）		3,236	3,153	3,828	5,640				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0		特別支援教育就学奨励費補助金（国）						
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			保護生徒助成事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	学事・保健係	
10	3	2							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化			主たる内容	準要保護生徒に対する学用品費、校外活動費、修学旅行費等の扶助、要保護生徒に対する修学旅行費の扶助を行う。		
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	刈谷市立の中学校に就学する生徒の保護者で経済的に困窮し、子どもを就学させることが困難な方に対して、学用品費等を援助することにより、負担軽減を行う。							
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令	就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励についての国の援助に関する法律						
		対象者	刈谷市立の中学校に就学する生徒	事業期間	～				
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	BDO 事業実績 計画 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		平成25年5月1日現在		平成26年5月1日現在		平成27年5月1日現在		平成28年5月1日現在	
・全校生徒数 4,552人		・全校生徒数 4,401人		・全校生徒数 4,339人		・全校生徒数 4,284人			
・要保護生徒 29人		・要保護生徒 24人		・要保護生徒 17人		・要保護生徒 13人			
・準要保護生徒 283人		・準要保護生徒 270人		・準要保護生徒 281人		・準要保護生徒 281人			
成果		学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費等を援助することで、保護者の経済的な負担を軽減し、就学の維持が図れるよう配慮できた。							
課題		給与費目の拡充等、近隣市の動向を注視し、検討する。							
指標名称（単位）			実績値			目標値			
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		全校生徒数（人）		4,552	4,401	4,339	4,284	4,500	
指標									
他市との比較検証	国庫補助基準単価に準拠しており、近隣市と概ね同水準で実施している。								
C 事業コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		15,676	14,753	16,041	15,823	合計	16,041,159 円	
	財源	特定財源	381	149	103	354	扶助費	16,041,159 円	
		一般財源	15,295	14,604	15,938	15,469			
	職員人件費 ②		701	704	1,018	989			
	総事業費（①+②）		16,377	15,457	17,059	16,812			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0		就学援助費補助金					
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			特別支援教育就学奨励事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	学事・保健係		
10	3	2								
PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	特別支援学級在籍生徒の保護者の経済的な負担軽減を行う。	主たる内容	特別支援学級に在籍する生徒の保護者のうちで、所得が支給制限額を下回っているものに対し、学用品費等の一部を扶助する。						
	位置づけ	関連計画								
			根拠法令	特別支援学級への就学奨励に関する法律						
		対象者	特別支援学級在籍生徒	事業期間	～					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 計画	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		・辞退者	11人	・辞退者	21人	・辞退者	14人	・辞退者	16人	
・申請者		54人	・申請者	39人	・申請者	41人	・申請者	45人		
・認定者		47人	・認定者	37人	・認定者	38人	・認定者	41人		
成果		学用品費、校外活動費、修学旅行費、新入学用品費等を援助することで、保護者の経済的な負担を軽減し、就学の維持が図れるよう配慮できた。								
課題		領収書の徴収方法、給与費目の見直し等、国の指導に基づき、適切に対応する。								
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
活動指標		特別支援学級在籍生徒数（人）		65	60	55	70	70		
指標										
他市との比較検証	国庫補助基準単価に準拠しており、近隣市も概ね同水準で実施している。									
C 事業コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費 ①		2,225	1,530	1,530	3,157	合計	1,530,010 円		
	財源	特定財源	746	766	763	946	扶助費	1,530,010 円		
		一般財源	1,479	764	767	2,211				
	職員人件費 ②		561	704	1,254	1,217				
	総事業費（①+②）		2,786	2,234	2,784	4,374				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
		27年度までの累積事業費		0		特別支援教育就学奨励費補助金（国）				
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			児童生徒等健康診断事業	担当部	教育部
一般会計				担当課	学校教育課
款	項	目		担当係	学事・保健係
10	6	1			

PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化		
		基本施策	学校教育		
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応		
	目的	児童生徒及び教職員の健康の保持、増進を図る。	主たる内容	小学校、中学校における児童生徒及び小中学校の教職員の健康管理のため、健康診断を行う。	
	位置づけ	関連計画			
			根拠法令		
		対象者	小中学校児童・生徒および教職員	事業期間	～
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他			

		25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度計画	
B 事業 D 実績	【児童・生徒】	心電図、尿検査、寄生虫卵検査、肝機能検査、血糖検査、貧血検査、胸部レントゲン（結核検診要精検者）	【児童・生徒】 心電図、尿検査、寄生虫卵検査、肝機能検査、血糖検査、貧血検査、胸部レントゲン（結核検診要精検者）	【児童・生徒】 心電図、尿検査、寄生虫卵検査、肝機能検査、血糖検査、貧血検査、胸部レントゲン（結核検診要精検者）	【児童・生徒】 心電図、尿検査、肝機能検査、血糖検査、貧血検査、胸部レントゲン（結核検診要精検者）	
	【教職員】	身長・体重、視力、腹囲、血圧、聴力検査、尿検査、血液検査、胸部レントゲン、（心電図、胃部レントゲン）	【教職員】 身長・体重、視力、腹囲、血圧、聴力検査、尿検査、血液検査、胸部レントゲン、（心電図、胃部レントゲン）	【教職員】 身長・体重、視力、腹囲、血圧、聴力検査、尿検査、血液検査、胸部レントゲン、（心電図、胃部レントゲン）	【教職員】 身長・体重、視力、腹囲、血圧、聴力検査、尿検査、血液検査、胸部レントゲン、（心電図、胃部レントゲン）	
	成果	健康診断が自分の健康に関心を持つ、良い機会になっている。また、疾病の早期発見、早期治療に役立っている。				
課題	健康診断の結果に基づき適切な措置を取り、健康の保持、増進を図る必要があるが、教職員健康診断で医師の診察を受けるよう指摘されたにもかかわらず、放置しているケースもある。事後措置を促す、積極的な働きかけが課題である。					

		実績値			目標値	
指標名称（単位）		25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
成果指標	健康診断実施率（児童生徒）（%）	99.5	99.5	99.6	99.5	99.5
成果指標	健康診断実施率（教職員）（%）	95	95	95	95	95
他市との比較検証						

単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
事業費 ①		27,829	28,532	28,313	32,780	合計	28,313,379 円
財源	特定財源	0	0	0	0	需用費	38,643 円
	一般財源	27,829	28,532	28,313	32,780	役務費	26,741,980 円
職員人件費 ②		210	211	783	760	委託料	1,532,756 円
総事業費（①+②）		28,039	28,743	29,096	33,540		
建設事業	全体事業費（単位：千円）	0		27年度特定財源名称			
	27年度までの累積事業費	0					
	29年度以降の事業費見込	0					

会計名 一般会計			保護生徒等助成事業				担当部	教育部	
款	項	目					担当課	学校教育課	
10	6	1					担当係	学事・保健係	
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	刈谷市立の小中学校に就学する児童生徒の保護者で経済的に困窮し、子どもを就学させることが困難な方に対して、援助をすることにより負担軽減を行う。				主たる内容	準要保護児童生徒に対する給食費の補助を行う。		
	位置づけ	関連計画							
			根拠法令	就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励についての国の援助に関する法律					
		対象者	小中学校児童生徒			事業期間	～		
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B 事業 D 実績 O ハ 実 施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		平成25年5月1日現在 ・全校児童生徒数 12,980人 ・要保護児童生徒 69人 ・準要保護児童生徒 635人		平成26年5月1日現在 ・全校児童生徒数 12,803人 ・要保護児童生徒 61人 ・準要保護児童生徒 624人		平成27年5月1日現在 ・全校児童生徒数 12,673人 ・要保護児童生徒 51人 ・準要保護児童生徒 642人		平成28年5月1日現在 ・全校児童生徒数 12,616人 ・要保護児童生徒 41人 ・準要保護児童生徒 640人	
成果		準要保護世帯の給食費を全額援助することで、保護者の負担を軽減し、就学の維持が図れるよう配慮できた。							
課題		生活困窮世帯の給食費の負担を軽減するため、保護者への就学援助制度の理解を促す必要がある。							
O ハ 実 施 V	指標名称（単位）				実績値		目標値		
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
	活動指標	全校児童生徒数（人）			12,980	12,803	12,673	12,616	13,000
他市との比較検証	安城市、知立市及び碧南市は、本市と同様、準要保護児童生徒に実費を支給している。高浜市は、年間の上限額を設定している。								
C 事業 コスト 建設事業	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		26,353	26,975	27,418	29,055	合計	27,418,480 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	扶助費	27,418,480 円	
		一般財源	26,353	26,975	27,418	29,055			
	職員人件費 ②		351	352	1,018	989			
	総事業費（①+②）		26,704	27,327	28,436	30,044			
建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
	27年度までの累積事業費		0						
	29年度以降の事業費見込		0						

会計名 一般会計			負傷児童等移送事業				担当部	教育部	
款	項	目					担当課	学校教育課	
10	6	1					担当係	学事・保健係	
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	児童生徒の学校管理下、あるいは、校外活動時の病気やケガに、迅速に対応する。	主たる内容	小学校、中学校での児童生徒の病気やケガの発生時に、医療機関へ移送するための自動車の借り上げを行う。					
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
	対象者	小中学校児童生徒		事業期間	～				
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業実績 D 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		・移送回数 校内：81回		・移送回数 校内：83回		・移送回数 校内：72回		・移送回数 校内：79回	
成果		学校内や校外活動中における病気やケガの発生により、児童生徒を医療機関へ搬送する際、迅速な対応ができた。							
課題		タクシーチケット使用台帳のチェックを徹底し、適切に予算を執行する。							
指標名称（単位）				実績値			目標値		
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
活動指標	移送回数（回）			81	83	72	79	90	
指標									
他市との比較検証									
C 事業コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		131	164	144	249	合計	144,318 円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	使用料及び賃借料	144,318 円	
		一般財源	131	164	144	249			
	職員人件費 ②		140	141	392	380			
	総事業費（①+②）		271	305	536	629			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名 一般会計			学校保健振興事業				担当部	教育部			
款	項	目					担当課	学校教育課			
10	6	1					担当係	学事・保健係			
PLAN 事業概要 計画V	総合計画 施策体系	分野	教育文化								
		基本施策	学校教育								
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応								
	目的	学校保健活動の振興を図る。			主たる内容	○小中学校の環境調査に必要な検査機器の消耗品の購入 ○学校給食配膳用白衣の購入 ○小中学校の室内空気検査及び飲料水、プール水水質検査を年1回、愛知県薬剤師会へ依頼し、環境衛生分析実施 ○刈谷市学校保健大会の開催 ○市内全小学校でフッ化物洗口を実施					
	位置づけ	関連計画									
		根拠法令									
		対象者	小中学校			事業期間	～				
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他								
	B 事業実績 D 実績 O 実績 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画			
		・フッ化物洗口事業 継続 15校		・フッ化物洗口事業 継続 15校		・フッ化物洗口事業 継続 15校		・フッ化物洗口事業 継続 15校			
成果		学校保健活動の振興を図ることができた。									
課題		費用対効果をさらに高めるため、使用薬剤（オラブリス）の検証が必要になる。									
指標名称（単位）				実績値			目標値				
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
活動指標		フッ化物洗口事業実施校（校）			15	15	15	15	15		
指標											
他市との比較検証		フッ化物洗口事業は、近隣市では、すべて実施されている。									
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費 ①		3,587	3,791	3,952	5,678	合計 3,951,667 円				
	財源	特定財源	0	0	0	0	報償費	60,000 円			
		一般財源	3,587	3,791	3,952	5,678	需用費	1,901,289 円			
	職員人件費 ②		701	704	1,489	1,445	役務費	1,406,268 円			
	総事業費（①+②）		4,288	4,495	5,441	7,123	委託料	244,000 円			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称					
27年度までの累積事業費		0									
29年度以降の事業費見込		0									

会計名			小中学校各種大会選手派遣補助事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	6	2							
PLAN概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	小中学校体育大会選手派遣事業に要する費用を補助することにより、スポーツ活動を奨励し、体力、運動能力の向上と保護者負担の軽減を図る。			主たる内容	○愛知県教育委員会、文部科学省、愛知県中小学校体育連盟及び全日本中学校体育連盟の主催する大会（弓道については全国中学校弓道大会をその大会とみなす）の運賃等の負担 ○その他上記以外の大会で、市の代表として出場する大会（東海大会以上）の運賃等の負担			
	関連計画								
	位置づけ	根拠法令							
	対象者	児童・生徒およびその保護者			事業期間	～			
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B D O A 実 施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		西三大会運賃補助 延べ 760名	西三大会運賃補助 延べ 743名	西三大会運賃補助 延べ 557名	西三大会運賃補助 延べ 760名	県大会運賃補助 延べ 128名	県大会運賃補助 延べ 118名	県大会運賃補助 延べ 96名	県大会運賃補助 延べ 140名
東海大会運賃等補助 14名		東海大会運賃等補助 7名	東海大会運賃等補助 13名	東海大会運賃等補助 30名	全国大会運賃等補助 17名	全国大会運賃等補助 10名	全国大会運賃等補助 8名	全国大会運賃等補助 10名	
成果 生徒が上位大会に進む際、交通費、宿泊費等によって生ずる保護者の負担を軽減することができ、生徒が等しくスポーツに打ち込める条件の一つを保障することができた。									
課題 各種大会で活躍する生徒が増えているため、今後も継続したい。									
指標名称（単位）				実績値		目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
活動指標		県大会以上出場選手数（延べ人数）（人）			159	135	97	180	190
他市との比較検証		他市でも上位大会での交通費や宿泊費を補助することで、保護者への負担を軽減している。							
C 事業 コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費 ①		1,200	1,313	1,608	1,688	合計 1,607,780 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	負担金、補助及び交付金 1,607,780 円		
		一般財源	1,200	1,313	1,608	1,688			
	職員人件費 ②		701	704	940	913			
	総事業費（①+②）		1,901	2,017	2,548	2,601			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			部活動指導者活用事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	6	2								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	専門の技能を有する人材を中学校の部活動指導者として委嘱することにより、地域社会との連携とともに、部活動の活性化を図る。		主たる内容	体育・文化的領域、分野で優れた技能・指導技術を身につけた方を中学校部活動の指導者として委嘱する。					
	主な種別	弓道、剣道、柔道、野球、バレーボール、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、陸上競技、サッカー、オーケストラ								
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
		対象者	中学校	事業期間	平成15年度～					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業実績 D 実績 O 実績 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
中学校6校の部活動に外部指導者を委嘱した。		中学校6校の部活動に外部指導者を委嘱した。		中学校6校の部活動に外部指導者を委嘱した。		中学校6校の部活動に外部指導者を委嘱する。				
指導時間			指導時間		指導時間		指導時間			
19人		各200時間	19人	各200時間	18人	各200時間	22人	各200時間		
2人		各100時間	1人	各100時間	7人	各100時間	3人	各100時間		
豊田自動織機・デンソー		各150時間	計 20人	3,900時間	計 25人	4,200時間	計 25人	4,600時間		
サッカー部0G		120時間								
F C刈谷										
計 24人		4,420時間								
成果		生徒に専門的な技術指導をすることができるようになり、生徒のやる気を高めることができた。特に、弓道や柔道は、保健体育のカリキュラムで取り扱われておらず、専門的に指導できる技術をもつ顧問が少ないので、外部指導者を導入したことで、生徒の技術も向上し、また、活動における安全性を確保することができた。総指導時間数が増えてきたことで専門的な技術を取得し、大会等で大いに成果を上げている。								
課題	今後は、中学校からの外部指導者導入の要望を受け止めつつ、さらにより多くの種別の部活動で専門的な指導を受けることが望まれる。そうすることで、個々の生徒への指導が行き渡るとともに、生徒の意欲喚起を図ることが可能となり、全体のレベルアップを図ることにつながる。									
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
活動指標	運動部活動外部指導者（人）		24	20	25	25	26			
活動指標	一人当たりの平均指導時間（時間）		184	184	175	184	200			
他市との比較検証	高浜市と知立市では、刈谷市と同様に市の予算により外部指導者の活用事業に取り組んでいる。安城市では、剣道部のみ市の予算により外部指導者を依頼している。碧南市、西尾市は、各学校が費用負担し、外部指導者を依頼している。									
C 事業コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費 ①		4,043	3,768	4,378	4,646	合計	4,377,845 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	報償費	4,377,845 円		
		一般財源	4,043	3,768	4,378	4,646				
	職員人件費 ②		701	704	940	913				
	総事業費（①+②）		4,744	4,472	5,318	5,559				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			理科観察実験支援事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	指導係	
10	1	3							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	学校教育						
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応						
	目的	外部の人材を理科支援員、特別講師として活用することにより、授業における観察・実験活動の充実を図るとともに、教員の資質向上を図る。	主たる内容	理科支援員として、指導実績のある退職教員や研究者・技術者、大学院生、大学生などを活用し、理科の授業における観察、実験を支援する。					
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
	対象者	小学校	事業期間	平成19年度～					
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		国からの県委託事業として実施していたが、国が事業廃止となったため、本市においても実施しない。		国の新規事業として開始した。全小学校に1名指導員を配置し、5,6年生の理科の実験等に合計2,986時間の支援を行った。		全小学校に1名指導員を配置し、5,6年生の理科の実験等に合計2,870時間の支援を行った。		全小学校に1名指導員を配置し、5,6年生の理科の実験等に合計2,835時間の支援を行う。	
成果		実験、観察の機会が増えた。 実験、観察に係る教師の負担が軽減された。							
課題		時間数が限られており、すべての授業の補助に入れないため、時間数を増やすことが課題である。							
指標名称（単位）				実績値		目標値			
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
活動指標		実験、観察の機会がととも増えた（％）			—	33	71	70	80
成果指標		教師の負担が大きく減った（％）			—	73	100	100	100
他市との比較検証									
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費①		0	2,986	2,870	2,835	合計	2,870,000円	
	財源	特定財源	0	1,079	905	945	報償費	2,870,000円	
		一般財源	0	1,907	1,965	1,890			
	職員人件費②		0	634	1,254	1,217			
	総事業費（①+②）		0	3,620	4,124	4,052			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
		27年度までの累積事業費		0		理科教育設備費補助金（国）			
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			養護教諭支援員配置事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	1	3								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	小中学校の宿泊を伴う行事（修学旅行、みどりの学校、林間学校）には、養護教諭が付き添うため学校に養護教諭が不在となる。この間、学校に養護教諭支援員を配置し、児童生徒のけがや病気への対応が十分にできるようにし、学校の安全面での強化を図る。	主たる内容	宿泊を伴う学校行事により、計画的に養護教諭が不在となる場合に養護教諭支援員を配置し、学校での養護教諭の業務を行う。						
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
	対象者	小中学校	事業期間	平成27年度～						
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他								
	BDO 事業実績 計画 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		—		—		・宿泊を伴う学校行事により養護教諭が不在になる場合の、学校での養護教諭業務 支援員数 7名 配置日数 93日		・宿泊を伴う学校行事により養護教諭が不在になる場合の、学校での養護教諭業務 支援員数 7名 配置日数 86日		
成果		養護教諭不在中の学校で、児童生徒のけがや病気に対し、専門的な知識をもって対応することができた。児童生徒の安全確保と教職員の負担を軽減することができた。								
課題		健康診断等、養護教諭が複数必要な場面においても活用できるとよい。								
指標名称（単位）				実績値		目標値				
				25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		養護教諭支援員配置日数（日）			—	—	93	86	90	
活動指標										
他市との比較検証										
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費①		0	0	1,908	2,004	合計	1,908,200円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	賃金	1,908,200円		
		一般財源	0	0	1,908	2,004				
	職員人件費②		0	0	470	456				
	総事業費（①+②）		0	0	2,378	2,460				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
		27年度までの累積事業費		0						
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			子ども相談センター管理事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	子ども相談センター		
10	1	4								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	子ども相談センターの円滑な管理運営を行う。	主たる内容	○施設の維持管理費 ○光熱水費（電気・水道・ガス） ○修繕費 ○電話料 ○委託料（清掃委託・保守管理委託・樹木管理委託等） ○下水道使用料 ○土地借上料						
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
		対象者		事業期間	～					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業実績 D 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		光熱水費始め委託料など子ども相談センター管理に必要な経費		光熱水費始め委託料など子ども相談センター管理に必要な経費		光熱水費始め委託料など子ども相談センター管理に必要な経費		光熱水費始め委託料など子ども相談センター管理に必要な経費		
成果		円滑な管理運営を行うことができた。								
課題		平成24年度に大規模改修を行っているが、その時改修が行われてない所を随意に修繕を行う必要がある。								
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
活動指標	開所日数（日）		294	293	294	293	293			
指標										
他市との比較検証										
C 事業コスト V	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費 ①		7,524	7,273	7,120	8,124	合計	7,120,013 円		
	財源	特定財源	0	0	0	10	需用費	1,529,794 円		
		一般財源	7,524	7,273	7,120	8,114	役務費	334,404 円		
	職員人件費 ②		1,368	1,056	3,917	3,802	委託料	2,705,455 円		
	総事業費（①+②）		8,892	8,329	11,037	11,926	使用料及び賃借料	2,550,360 円		
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称				
27年度までの累積事業費		0								
29年度以降の事業費見込		0								

会計名			特別支援学級児童生徒支援事業				担当部	教育部		
一般会計							担当課	学校教育課		
款	項	目					担当係	指導係		
10	1	3								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	特別支援学級に在籍する精神障害等のある児童生徒に対して、その障害の状態に応じ、適切な教育支援及び介助支援を行う。 経緯 平成25年9月1日からの学校教育法施行令の一部改正により、従来特別支援学校に就学してきた障害の重い児童生徒が通常の小中学校に就学することが多くなっており、特別支援学級の児童生徒に十分な指導が行き届かない状態がある。			主たる内容	市内小中学校の特別支援学級（知的障害学級・自閉症情緒障害学級・病弱学級）在籍の児童生徒のうち、精神障害や重複障害をもつために、特に支援の必要な児童生徒について適切な教育支援を行うとともに、他の特別支援学級在籍の児童生徒にも十分な教育活動を行うために、児童生徒の障害の状態に応じ、適切な教育支援を行う支援員を配置する。				
	位置づけ	関連計画								
		根拠法令								
		対象者	小中学校	事業期間	～					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業実績 D 実績 O 実績 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
				特別支援学級に在籍する児童生徒のうち、特に支援の必要な児童生徒について、適切な教育支援を行う支援員を配置した。 （配置校）富士松東小学校、朝日中学校		特別支援学級に在籍する児童生徒のうち、特に支援の必要な児童生徒について、適切な教育支援を行う支援員を配置した。 （配置校）住吉小学校、富士松東小学校、雁が音中学校、朝日中学校		特別支援学級に在籍する児童生徒のうち、特に支援の必要な児童生徒について、適切な教育支援を行う支援員を配置する。 （配置校）刈谷東中、雁が音中、衣浦小、住吉小、かりがね小、富士松南小、富士松北小、富士松東小、東刈谷小		
成果		支援指導補助員が配置されたことにより、特別支援学級に在籍する児童生徒にきめ細かい支援や指導ができるようになった。								
課題		より専門的な知識や技能をもった支援指導補助員を配置することでその子に応じた支援や指導ができるようにしていきたい。								
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度			
活動指標		特別支援学級児童生徒支援指導補助員（人）		—	2	4	13	13		
活動指標		支援が必要な児童生徒に対する支援指導補助員の充足率（%）		—	100	100	100	100		
他市との比較検証		他の4市は本市における学校教育活動支援事業、特別支援学級児童生徒支援事業、肢体不自由児童生徒介助支援事業が一体となっている。 安城市 79名 4,279万円 碧南市 28名 3,047.1万円 知立市 23名 2,599.8万円 高浜市 23名 2,052万円								
C 事業コスト V		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		0	2,020	4,154	13,750	合計	4,153,500 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	賃金	4,153,500 円		
		一般財源	0	2,020	4,154	13,750				
	職員人件費 ②		0	1,971	1,567	1,521				
	総事業費（①+②）		0	3,991	5,721	15,271				
建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称					
	27年度までの累積事業費		0							
	29年度以降の事業費見込		0							

会計名 一般会計			学力充実プラン推進事業				担当部	教育部		
款	項	目					担当課	学校教育課		
10	1	3					担当係	指導係		
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	学校教育							
		施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応							
	目的	県から示された「学力・学習状況充実プラン」や「結果分析プログラム」を積極的に活用し、本市の課題を明らかにする取り組みを支援する。 明らかになった課題と積極的に向き合い、課題を克服するとともに、学力を充実させるための実践研究を推し進め、学校教育活動の一層の工夫・改善に資する。 補正 愛知県委託事業として刈谷市が指定されたため。			主たる内容	全国学力・学習状況調査の結果を分析することで明らかとなった学習課題を解決するためのプランニングを行う。 また、そのプランに沿って、各学校が教育活動の改善を図る取り組みを支援する。 なお、実践したプランは、Webページで公開したり、リーフレットを作成、配布したりするなど、地域全体の取り組みとなるように働きかける。				
	関連計画									
	位置づけ	根拠法令								
	対象者	双葉小学校			事業期間	平成27年度 ~ 平成27年度				
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他								
	B 事業 D 実績 O ハ 実 施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
		_____		_____		双葉小学校をモデル校として研修会を実施した。 研修会8回実施 (内1回は市内教員参加) 実践したプランを、Webページで公開した。		_____		
成果		「学びの中で自己肯定感や自己有用感を感じられる授業づくり」の視点で市内各校に研究成果を広めることができた。								
課題		中学校での取組も研修していきたい。								
指標名称（単位）					実績値		目標値			
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度	
活動指標	研修会に参加した学校数（校）				-	-	21	-	-	
指標										
他市との比較検証										
C 事業 コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳			
	事業費 ①		0	0	130	0	合計		130,000 円	
	財源	特定財源	0	0	130	0	報償費		110,000 円	
		一般財源	0	0	0	0	需用費		20,000 円	
	職員人件費 ②		0	0	235	0				
	総事業費（①+②）		0	0	365	0				
建設事業	全体事業費（単位：千円）			0	27年度特定財源名称					
	27年度までの累積事業費			0	学力充実プラン推進事業委託金（県）					
	29年度以降の事業費見込			0						

会計名 一般会計		地域に学び・語り継ぐキャリア教育推進事業				担当部	教育部		
款	項					目	担当課	学校教育課	
10	1	3	業			担当係	指導係		
総合計画 施策体系						分野	教育文化		
			基本施策	学校教育					
			施策の内容	児童生徒へのきめ細かな対応					
PLAN 事業概要 計画 V	目的	高学年児童が、地域講師に学ぶ体験活動や講話を通して深めた考えを、下級生に語る場を持つことで、各学年の発達段階に応じ、全校が生き方や働くことについて考える。 補正 愛知県委託事業として刈谷市立衣浦小学校が指定されたため。			主たる内容	（1）実施学年 系統的なキャリア教育の推進を目指し、全学年を対象とする。ただし、体験活動については、原則として高学年を対象とする。 （2）講師 原則として地域の中から選定し、子どもたちの働くことに対する関心・意欲を高めることが期待できる人材とする。 （3）教育課程 総合的な学習の時間、特別活動、各教科の特性を考慮し、全学年ともに教育課程を適切に位置付けて、学校の教育活動の一環として系統的に実施する。			
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	衣浦小学校			事業期間	平成27年度 ～ 平成27年度		
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
B 事業実績 D 実績 O 実施 V	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画		
	—		—		6年生が将来なりたい職業調べをした後、地域の方を招きお話を聞いた。 5年生が地域の専門家から地震の仕組みや防災について学んだ。 6年生と5年生が下学年の教室へ行き、学んだことを発表した。		—		
	成果	学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感することができ、学ぶ意欲の向上が促され、将来の社会的自立・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育成することができた。キャリア教育に関わる人間関係形成・社会形成能力や自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力といった基礎的・汎用的能力を身につけることができた。							
	課題	児童が調べた職業の数に近い講師を確保するために、時間がかかった。							
	指標名称（単位）					実績値		目標値	
					25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
活動指標	参加児童生徒数（人）				—	—	229	—	—
活動指標									
他市との比較検証									
C 事業コスト	単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳		
	事業費 ①		0	0	123	0	合計	123,400 円	
	財源	特定財源	0	0	123	0	委託料	123,400 円	
		一般財源	0	0	0	0			
	職員人件費 ②		0	0	235	0			
	総事業費（①+②）		0	0	358	0			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0		地域に学び・語り継ぐキャリア教育推進事業委託金（県）					
29年度以降の事業費見込		0							

会計名			刈谷少年少女発明クラブ補助事業				担当部	教育部	
一般会計							担当課	学校教育課	
款	項	目					担当係	学事・保健係	
10	5	5							
PLAN 事業概要 計画	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	生涯学習						
		施策の内容	学習活動の支援						
	目的	次代を担う児童または青少年に対し、科学技術に関する興味・関心を喚起すると共に、創造活動を通してアイデアを実現する喜びを体験させることにより、健全で創造性豊かな児童または青少年の育成に寄与することを目的に設立された刈谷少年少女発明クラブの活動を支援する。	主たる内容	刈谷少年少女発明クラブの活動を支援するため、補助金を交付する。					
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令	刈谷市補助金等交付規則						
	対象者	刈谷少年少女発明クラブ		事業期間	～				
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	BDO 事業実績 計画	25年度実績		26年度実績		27年度実績		28年度計画	
		――		世界中の14の国と地域からの参加者により開催された、考え方の冒険の旅という意味を持つ「OM世界大会」において、日本初の金メダルを獲得した。 また、あいち少年少女創意工夫展において、県1位の文部科学大臣奨励賞を受賞した。		小中学校児童生徒に対して定期的にクラブを開催し、創意工夫作品の制作等の支援を行った。		小中学校児童生徒に対して定期的にクラブを開催し、創意工夫作品の制作等の支援を行う。	
成果		児童生徒の自主的な活動の機会を維持し、学習活動の活性化を図ることができた。							
課題		財政健全化の施策として、入会金などの新設を行うと共に、講座数の見直しによるスリム化で、人件費、材料費の経費削減に取り組む必要がある。							
指標名称（単位）			実績値			目標値			
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度		
活動指標		クラブ会員数（人）		533	487	555	600	600	
活動指標		創意工夫作品の県上位・全国レベルの入賞者数（人）		—	—	55	50	60	
他市との比較検証		トヨタグループ会社に加え、地元団体、企業等から寄附を受けており、他市と比較しても、より地域に根ざした発明クラブである。							
C 事業コスト		単位：千円		25年度（決算）	26年度（決算）	27年度（決算）	28年度（予算）	27年度事業費内訳	
	事業費 ①		0	3,200	3,200	3,200	合計 3,200,000 円		
	財源	特定財源	0	0	0	0	負担金、補助及び交付金 3,200,000 円		
		一般財源	0	3,200	3,200	3,200			
	職員人件費 ②		0	845	1,175	1,141			
	総事業費（①+②）		0	4,045	4,375	4,341			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		27年度特定財源名称			
27年度までの累積事業費		0							
29年度以降の事業費見込		0							